

【コミュニケーション情報学科専門科目】

教育課程	7-1	情報特論Ⅰ	第4学年	7-43	
専門科目の概要（旧教育課程）	7-2	実務研修	第4学年	7-44	
専門科目の概要（新教育課程）	7-3	卒業研究	第5学年	7-45	
ビジネス事情Ⅰ	第1学年	7-4	パブリック・スピーキングⅡ	第5学年	7-46
ビジュアル情報基礎	第1学年	7-5	ビジネス・ライティングⅡ	第5学年	7-47
情報基礎	第1学年	7-6	ビジネスと法律	第5学年	7-48
コミュニケーション論入門	第1学年	7-7	ビジネス英語Ⅱ	第5学年	7-49
経営情報入門	第2学年	7-8	マーケティング	第5学年	7-50
情報基礎演習	第2学年	7-9	企業論	第5学年	7-51
コミュニケーション論	第2学年	7-10	言語文化	第5学年	7-52
ビジュアル情報演習	第2学年	7-11	広告・広報メディア概論	第5学年	7-53
ビジネス事情Ⅱ	第2学年	7-12	国際金融論	第5学年	7-54
セミナー	第3学年	7-13	国際経済	第5学年	7-55
情報統計	第3学年	7-14	視覚情報概論	第5学年	7-56
情報コミュニケーション	第3学年	7-15	社会調査	第5学年	7-57
情報コミュニケーション演習	第3学年	7-16	情報システム論	第5学年	7-58
情報メディア論	第3学年	7-17	情報メディア演習	第5学年	7-59
財務会計	第3学年	7-18	情報特論Ⅱ	第5学年	7-60
マクロ・ミクロ経済	第3学年	7-19	第2外国語Ⅲ	第5学年	7-61
ビジュアル情報	第3学年	7-20	第2外国語Ⅲ	第5学年	7-62
コミュニケーション論	第3学年	7-21	第2外国語Ⅳ	第5学年	7-63
心理学入門	第3学年	7-22	第2外国語Ⅳ	第5学年	7-64
マルチメディアⅡ	第3学年	7-23	文献講読	第5学年	7-65
セクレタリー	第3学年	7-24	文献講読	第5学年	7-66
セミナー	第4学年	7-25	貿易実務	第5学年	7-67
パブリック・スピーキングⅠ	第4学年	7-26			
ビジネス・ライティングⅠ	第4学年	7-27			
第2外国語Ⅰ	第4学年	7-28			
第2外国語Ⅰ	第4学年	7-29			
第2外国語Ⅱ	第4学年	7-30			
第2外国語Ⅱ	第4学年	7-31			
情報コミュニケーション	第4学年	7-32			
経営学	第4学年	7-33			
人間関係論	第4学年	7-34			
知的所有権	第4学年	7-35			
プレゼンテーション	第4学年	7-36			
会計学	第4学年	7-37			
プログラミング言語	第4学年	7-38			
時事英語	第4学年	7-39			
確率統計	第4学年	7-40			
ビジネス英語Ⅰ	第4学年	7-41			
国際関係論	第4学年	7-42			

コミュニケーションの専門科目 情報学

コミュニケーション
情報学
科

平成18年度 学年別教育課程

【専門科目】

コミュニケーション情報学科

授 業 科 目	単位数	学 年 別					備 考
		1	2	3	4	5	
ゼミナール				1	2		必修得科目
卒業研究						6	必修得科目
パブリックスピーキングⅠ					2		
ビジネスライティングⅠ					2*		
パブリックスピーキングⅡ						2	
ビジネスライティングⅡ						2	
第2外国語Ⅰ					2		
第2外国語Ⅱ					2		
ビジネス事情Ⅰ	2						
情報基礎	2						
ビジュアル情報基礎	2						
コミュニケーション論入門	2						
経営情報入門		2					
情報基礎演習			2				
ビジュアル情報演習			2				
コミュニケーション論			2				
ビジネス事情Ⅱ			1				
情報統				2			
情報コミュニケーション				2	2		
情報コミュニケーション演習				2			
情報メディア論				2			
情報メディア演習						2	
財務会計				2			
マクロ・ミクロ経済				2			
経営学					2*		
企業論						2	
国際経済						2*	
マーケティング						2*	
ビジュアル情報			2				
コミュニケーション論			2				
心理学入門			2				
人間関係論					2		
視覚情報概論						2	
言語文化						2	
知的所有権					2		
プレゼンテーション					2		
会計学					2		
プログラミング言語					2		
時事英語					2		
確率統計					2		3科目選択
ビジネス英語Ⅰ					2		
国際関係論					2		
国際金融論						2	
広告・広報メディア論						2	
貿易実務論						2	
情報システム論						2	
ビジネスと法律						2	5科目選択
社会調査						2	
文献講読						2	
第2外国語Ⅲ						2	
ビジネス英語Ⅱ						2	
第2外国語Ⅳ						2	
開設単位小計		8	9	19	32	42	
選択科目	マルチメディアⅡ			1			集中講義
	マルチメディアⅠ			1			
	情報特論Ⅰ				1		
	情報特論Ⅱ					1	
	実務研修				1		
開設単位小計(課題演習を除く)		0	0	2	2	1	
専門科目	開設単位合計	8	9	21	34	43	
	修得可能単位数	8	9	21	28	33	
一般科目	開設単位合計	24	24	16	11	5	
	修得可能単位数	24	24	16	11	5	
合計	開設単位合計	32	33	37	45	48	
	修得可能単位数	32	33	37	39	38	

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

専門科目の概要(旧教育課程)

コミュニケーション情報学科

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	第 5 学 年
		コミュニケーション論(2) 心理学入門(2)	人間関係論(2)	視聴覚情報概論(2)
			パブリックスピーキングⅠ(2) ビジネスライティングⅠ(2) 時事英語(2) ビジネス英語Ⅰ(2) 第2外国語Ⅰ(2) 第2外国語Ⅱ(2)	パブリックスピーキングⅡ(2) ビジネスライティングⅡ(2) 文献講読(2) ビジネス英語Ⅱ(2) 第2外国語Ⅲ(2) 第2外国語Ⅳ(2)
情報基礎(2) 情報基礎演習(3)	情報処理(2) 情報処理演習(2)			言語文化(2)
		情報統計(2) 情報コミュニケーション(2)(2) 情報コミュニケーション演習(2) 情報メディア論(2)		情報メディア演習(2)
	マルチメディアⅠ(1)	マルチメディアⅡ(1)	プレゼンテーション(2) プログラミング言語(2)	情報システム論(2)
			情報特論Ⅰ(1) 確率統計(2)	情報特論Ⅱ(1)
図 学 (2) デザイン(2)	デザイン演習(2)			
	ビジュアル情報(2)(2)			広告・広報メディア論(2)
時事問題(1)	時事問題(1)			
		財務会計(2) マクロ・ミクロ経済学(2)		企業論(2) 国際経済(2)
			経営学(2) 知的所有権(2) 会計学(2)	マーケティング(2) 国際金融論(2) 貿易実務(2) ビジネスと法律(2)
		セクレタリー(1)		社会調査(2)
			国際関係論(2) 実務研修(1)	
		ゼミナール(1)(2)		卒業研究(8)
課 題 演 習 (1~2)				

必修科目
 選択科目
 () 単位数

コミュニケーション情報学科

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	第 5 学 年
				文献講読(2)
			ビジネス英語入門(2)	ビジネス英語演習(2)
コミュニケーション論入門(2)	コミュニケーション論(2)			
		言語コミュニケーション(2)		
			非言語コミュニケーション(2)	
			異文化コミュニケーション入門(2)	異文化コミュニケーション演習(2)
ビジュアル情報基礎(2)	ビジュアル情報演習(2)			
		情報処理基礎(2)	プログラミング基礎(2)	
情報基礎(2)	情報基礎演習(2)			
		情報処理演習(2)	プログラミング演習(2)	
				情報工学特講(1)
				情報システム(2)
				情報システム演習(2)
				情報創造セミナー(2)
		経営情報システム基礎(2)	経営情報システム演習(2)	
			確率統計学(2)	確率統計学演習(2)
				管理工学(2)
		経営数学入門(2)	経済学演習 I (2)	経営数学演習 II (2)
	経営情報入門(2)	経営情報演習(2)		
ビジネス時事 I (2)	ビジネス時事 II (1)	ビジネス事情演習(1)	経済学演習 I (2)	ビジネス創造セミナー(2)
				経済学演習 II (2)
				国際経営論(2)
				経営戦略論(2)
		経営入門(2)	経営学(2)	
				組織論(2)
			マーケティング論(2)	
			原価計算(2)	
		簿記入門(2)		
			財務会計(2)	
				会計理論(2)
			実務研修(1)	
			セミナー(2)	卒業研究(6)

必修科目
 選択科目
 () 単位数

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス事情 I Business Topics I	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	遠原 智文 渡部 順一
授業概要	ビジネスに関連する基礎的な政治・経済問題について学ぶ。				
到達目標	①日本経済に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。 ②世界経済に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。 ③日本政治に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。 ④世界政治に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1).				
履修上の注意	夏休みに、レポートを作成してもらい、その内容を発表してもらう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	授業の進め方およびレポートの書き方			
第2週	経済問題(1)	景気			
第3週	経済問題(2)	GDP(国内総生産)			
第4週	経済問題(3)	物価			
第5週	経済問題(4)	金融政策			
第6週	経済問題(5)	最近の経済ニュースを読む			
第7週	総合演習	確認テスト			
第8週	経済問題(6)	財政政策			
第9週	経済問題(7)	バブル経済			
第10週	経済問題(8)	不良債権			
第11週	経済問題(9)	財政赤字			
第12週	経済問題(10)	少子高齢化			
第13週	経済問題(11)	福祉			
第14週	経済問題(12)	最近の経済ニュースを読む			
第15週	総合演習	前期の復習			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	課題発表	課題発表			
第17週	課題発表	課題発表			
第18週	課題発表	課題発表			
第19週	政治問題(1)	ヨーロッパ:冷戦			
第20週	政治問題(2)	ヨーロッパ:スターリン批判			
第21週	政治問題(3)	最近の政治ニュースを読む			
第22週	政治問題(4)	アジア:中国と台湾			
第23週	政治問題(5)	アジア:朝鮮戦争			
第24週	政治問題(6)	最近の政治ニュースを読む			
第25週	政治問題(7)	中東:イスラエル			
第26週	政治問題(8)	中東:石油			
第27週	政治問題(9)	最近の政治ニュースを読む			
第28週	政治問題(10)	アメリカ:キューバ危機			
第29週	政治問題(11)	アメリカ:湾岸戦争			
第30週	総合演習	後期の復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	教養の政治学・経済学, 香川勝俊, 学術図書出版社 そうだったのか現代史, 池上彰, ホーム社				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 確認テストおよび課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジュアル情報基礎 Basic Visual Communication	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	内山 昭代
授業概要	情報化社会において重要な役割を果たしている視覚情報は、様々な要素によって成り立っている。その要素の中の基本要素である文字、形(具象、抽象)、色彩の情報要素を理解した上で、自ら作成し、視覚的に表現する基礎を学習する。				
到達目標	①形を空間的に把握でき、紙面に鉛筆でデッサンが描ける。 ②色彩の基本三原色から混色して基本色相が表現できる。 ③混色方法が理解できて、基本三原色・白・黒の絵の具からモデルのかたちと色彩表現ができる。 ④文字の意味を理解し、ビジュアル表現化する基礎技術が習得できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-1).				
履修上の注意	立体を把握するデッサン力、色彩を理解する三原色、文字の意味をビジュアル化する表現方法に留意する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	発想と表現	点・線・面による鉛筆表現方法			
第2週	鉛筆表現とデッサン	1枚の紙を折り曲げることでできる立体と空間を表現描写する			
第3週	鉛筆表現とデッサン	1枚の紙をねじることのできる立体と空間を表現描写する			
第4週	鉛筆表現とデッサン	1枚の紙から展開図を作図して制作した立体表現描写			
第5週	鉛筆表現とデッサン	紙以外の質感を持つもでの鉛筆表現描写			
第6週	色彩と混色	色彩の三原色を混色して全ての色彩を作る			
第7週	色彩表現と描写	自然の植物を描写する基本と色彩混色の方法			
第8週	色彩表現と描写	自然の植物を描写する基本と色彩混色の方法			
第9週	色彩表現と描写	自然の植物を描写する基本と色彩混色の方法			
第10週	果物と質感	果物の色彩表現と質感表現、色彩混色の方法			
第11週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味に視覚表現を加えるアイデアと方法			
第12週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味に視覚表現を加えるデザイン表現			
第13週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味に視覚表現を加えるデザイン表現			
第14週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味と視覚表現の仕上げ			
第15週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味と視覚表現の仕上げ			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	平面基礎図形の作図法	水平線、垂直線、平行線、平行線間の等分法			
第17週	平面基礎図形の作図法	円周の等分、角の等分、接線の作図、円周の直線化			
第18週	平面基礎図形の作図法	ルート矩形、黄金矩形の作図法			
第19週	平面基礎図形の作図法	正多角形: 正5角形、正6角形、正7角形、正8角形			
第20週	平面基礎図形の作図法	弧成楕円、放物線の作図法			
第21週	平面基礎図形の作図法	弧成スパイラルの作図法			
第22週	中間試験	平面基礎図形の作図法			
第23週	投影図の作図法	立体の投影法と概念、第1角法の投影図の作図法			
第24週	投影図の作図法	第1角法の投影図の作図法			
第25週	投影図の作図法	第3角法の投影図の作図法			
第26週	投影図の作図法	第3角法の投影図の作図法			
第27週	投影図の作図法	透視空間の概念、直接透視法、立体の透視法			
第28週	透視図の作図法	基本立体の透視法			
第29週	透視図の作図法	基本立体の透視法			
第30週	透視図の作図法	応用立体の透視法			
後期期末試験	実施する				
教科書	視覚表現, 南雲治嘉,グラフィック社 デザイン製図ハンドブック,小山清男,グラフィック社; 色料の三原色を応用したカラーチャート制作,内山昭代,福島高専研究紀要43号				
参考図書	ベーシック・デザイン,馬場雄二,グヴィット社				
評価方法	前期:課題作品提出を80%,制作レポート提出を20%で評価 後期:中間試験,期末試験の成績を70%,授業時の演習プリント提出を30%で評価				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報基礎 Information Literacy	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	小泉 康一
授業概要	一般科目、専門科目および情報系科目の基礎となる事項、コンピュータの操作方法を学ぶ。高専生として必要最低限の情報に関する知識を習得する。				
到達目標	①電子メール、ブラウザが利用でき、HTMLで簡単なホームページが作成できる。 ②プレゼンテーションソフトウェアの基本的な操作ができる。 ③初歩的なプログラミングができる。 ④基礎的なコンピュータネットワークの知識を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (D-2). (D-3). (F-3).				
履修上の注意	この授業で得た知識・技術を他の教科・科目で利用できなければならない。失敗を恐れず、コンピュータをどんどん使ってみてほしい。ただし、利用に当たっては、利用規則を遵守すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	オリエンテーション	学習の進め方、演習室の利用方法、eメールの使用法			
第2週	ネットワークの利用方法	Webの使用法、タイピング			
第3週	HTML(1)	タグの使い方 center, font, b,i,u,br,hr			
第4週	HTML(2)	タグの使い方 ul, ol, img, table, a			
第5週	HTML(3)	自己紹介Webページ作成			
第6週	プレゼンテーション(1)	文字、図形の入力方法			
第7週	プレゼンテーション(2)	絵図、アニメーション			
第8週	プレゼンテーション(3)	スライドについて 見やすい大きさ、配置、色			
第9週	表計算(1)	入力方法とsum関数			
第10週	表計算(2)	average,max,min関数			
第11週	表計算(3)	グラフ、その他の関数			
第12週	プレゼンテーション(4)	発表の聴講、評価			
第13週	プレゼンテーション(5)	発表の聴講、評価			
第14週	プレゼンテーション(6)	発表の聴講、評価			
第15週	プレゼンテーション(7)	発表の聴講、評価、まとめ			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	HTML(4)	自己紹介Webページ鑑賞、検討			
第17週	表計算(4)	if関数、入れ子			
第18週	プログラミング演習(1)	フローチャート、最大値の求め方			
第19週	プログラミング演習(2)	ソート、探索			
第20週	プログラミング演習(3)	円周、円の面積、単位変換			
第21週	プログラミング演習(4)	課題演習			
第22週	情報の基礎(1)	情報の基礎、情報の単位、n進法			
第23週	情報の基礎(2)	論理演算、アナログとデジタル、コンピュータの構成			
第24週	情報の基礎(3)	ハードウェアの基礎、入力装置、インターフェースとバス			
第25週	コンピュータネットワーク(1)	トポロジ、LAN、TCP/IP			
第26週	コンピュータネットワーク(2)	ドメイン名、パケット交換方式、セキュリティ			
第27週	コンピュータネットワーク(3)	通信技術、伝送方式、その他の通信			
第28週	情報の基礎(4)	知的所有権に関すること、java scriptの基礎			
第29週	情報の基礎(5)	期末試験に関して、まとめ			
第30週	情報の基礎(6)	OSの動向、プログラミング言語の動向など			
後期期末試験	実施する				
教科書	高等学校情報B、開隆堂・新しい情報技術基礎、オーム社				
参考図書	情報リテラシー、島村浩・内田修司・中尾剛・高木さやか、太陽企画				
評価方法	定期試験を40%、課題、小テストを40%、プレゼンテーションを20%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
コミュニケーション論入門 Introduction to Communication theory	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	松江 俊一
授業概要	コミュニケーション学の基礎となる要約力、論理的な発話能力を養うためのトレーニングを行い、読む力を養う。メモの技術、ワープロ・表計算ソフトの基礎を学ぶ。クラス内で様々なコミュニケーションを実体験する。				
到達目標	①和文タイプを100字/1分間(漢字含有率約30%)を入力できる。 ②英文60words /1分間(約250字)を入力できる。 ③2000字の文章を400字に要約し、内容についての確にコメントできる。 ④Excelのif文と簡単なグラフが作成できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2).				
履修上の注意	宿題を毎回やり終えてから授業に臨むこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	授業概要説明、諸注意、アンケート	授業目標の把握、Windowsの基本的操作			
第2週	タイピング練習、Word 1	文章の入力、文字の変換、保存、印刷			
第3週	タイピング練習、Word 2	複写、削除、移動			
第4週	タイピング練習、Word 3	編集機能(1)			
第5週	タイピング練習、Word 4	編集機能(2)			
第6週	タイピング練習、Excel 1	入力の基礎、sum関数、average関数			
第7週	タイピング練習、Excel 2	様々なデータ入力の方法			
第8週	タイピング練習、Excel 3	相対番地、絶対番地			
第9週	タイピング練習、Excel 4	絶対参照			
第10週	タイピング練習、Excel 5	max関数、min関数、count関数			
第11週	タイピング練習、Excel 6	if関数(1)			
第12週	タイピング練習、Excel 7	if関数(2)			
第13週	タイピング練習、Excel 8	if関数(3)			
第14週	タイピング練習、Excel 9	if関数(4)、グラフ作成(1)			
第15週	タイピング練習、Excel 10	if関数(5)、グラフ作成(2)			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	文章の並べ替え、結合(1)	コミュニケーションの基本的定義、メモの取り方			
第17週	文章の並べ替え、結合(2)	ブラウジング、読書法			
第18週	文章の並べ替え、結合(3)	日本人の読書力			
第19週	文章の要約(1)	音読の重要性			
第20週	文章の要約(2)	暗記の重要性			
第21週	文章の要約(3)	手書きの重要性、ワープロソフトの利便性			
第22週	文章の要約(4)	日誌(日記)の重要性			
第23週	中間試験				
第24週	図化・文章化の往復運動(1)	自己開示			
第25週	図化・文章化の往復運動(2)	ペルソナ			
第26週	図化・文章化の往復運動(3)	親和表現			
第27週	図化・文章化の往復運動(4)	アイ・コンタクト			
第28週	人間関係と日本語運用能力(1)	ポジショニング			
第29週	人間関係と日本語運用能力(2)	身体接触			
第30週	人間関係と日本語運用能力(3)	時間と色彩			
後期期末試験	実施する				
教科書	『実践!日本語ドリル』齋藤孝著、宝島社 / 『30時間でマスター Word&Excel2002』、実教出版 / 『コミュニケーション力』齋藤孝著、岩波書店				
参考図書	『情報リテラシー』島村浩他著、いわき科学教育研究会				
評価方法	定期試験 20%、タイピング20%、小テスト 30%、課題及び発表30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営情報入門 Introduction to Management Information	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	芥川 一則
授業概要	コンピュータの基本的な仕組みを理解するとともに企業の業務におけるコンピュータの役割を理解する。さらにコンピュータを道具として、その部署及び担当業務に役立てる手法を身につける。特に効率化の意味を理解する。				
到達目標	①初級システムアドミニストレータ程度の知識を理解できる。 ②初級システムアドミニストレータ程度の技能を身につける。 ③業務改善の方法が理解できる。 ④国家試験に合格できる実力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3), (C-2), (D-2), (E-3).				
履修上の注意	初級システムアドミニストレータ程度の知識と技能を身につけられるように、授業時間ごとの予習に、復習に努めるとともに自主的に問題に取り組むこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	コンピュータの管理者	システムアドミニストレータの必要性	システムアドミニストレータの必要性 業務と情報の流れ、問題点の発見と改善 コンピュータと人間の機能 コンピュータの種類、ソフトウェアとその種類 QC七つ道具 専門用語の確認 新QC七つ道具 基幹業務システムの考え方 システム開発の手法と手順 入出力画面の設計 入力操作の定義 出力設計 テストの目的、テストの種類、PDCAサイクル 専門用語の確認		
第2週	コンピュータの業務				
第3週	コンピュータの仕組み(1)				
第4週	コンピュータの仕組み(2)				
第5週	業務の整理(1)				
第6週	総合演習(1)				
第7週	前期中間テスト				
第8週	業務の整理(2)				
第9週	基幹業務				
第10週	システム開発				
第11週	入出力設計(1)				
第12週	入出力設計(2)				
第13週	入出力設計(3)				
第14週	テストランとシステム運用				
第15週	総合演習(2)				
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	利用者とコンピュータ(1)	EUCが実現できた背景	EUCが実現できた背景 コンピュータ利用の変遷 パソコンの基本構成 パソコンの動作の仕組み ソフトウェアの種類 専門用語の確認 アプリケーションソフト、データ形式 表計算ソフトの基礎 データベースソフトの基礎 SQL、正規化、射影、選択、結合 LAN、WAN、インターネット マルチメディア、イントラネット、暗号化技術 オフィス環境、機器の配置 専門用語の確認		
第17週	利用者とコンピュータ(2)				
第18週	ハードウェア(1)				
第19週	ハードウェア(2)				
第20週	ソフトウェア(1)				
第21週	総合演習(3)				
第22週	後期中間試験				
第23週	ソフトウェア(2)				
第24週	表計算				
第25週	データベース(1)				
第26週	データベース(2)				
第27週	コンピュータネットワーク				
第28週	多様な活用法				
第29週	環境整備と運用管理				
第30週	総合演習(4)				
後期期末試験	実施する				
教科書	初級システム標準教科書、早川芳彦他、オーム社 情報C、数研出版				
参考図書	初級シスアド完全解答、オーム社				
評価方法	定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報基礎演習 Introduction Literacy Practice	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	布施 雅彦
授業概要	簡単なプログラミングを通し、WEBページの作り方を学ぶ。 情報メディア、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。				
到達目標	1. 簡単なプログラムを利用してWEBページを製作できる。 2. 製作したデータをサーバーにアップロードすることができる。 3. 情報化社会で生活するための基本的なネットワークの活用ができるようになる。 4. コンピュータセキュリティについて基本的なことがわかる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-2). (D-3).				
履修上の注意	WEBページ制作では、計画的に取り組み、期限までに提出すること。 学校の機器などは丁寧に扱うこと。演習室の利用やネチケット・著作権などの規則を守り取り組むこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	情報発信	ネットサーフィンによる閲覧			
第2週	HTML学習1	タグ			
第3週	HTML学習2	リスト・フォント			
第4週	HTML学習3	画像を表示			
第5週	HTML学習4	デジカメ等からの画像の取り込み・編集			
第6週	HTML学習5	相対パス			
第7週	前期中間テスト				
第8週	HTML学習6	内部と外部リンク			
第9週	HTML学習7	表			
第10週	Javascript1	表示・繰り返し			
第11週	Javascript2	分岐			
第12週	Javascript3	繰り返し・分岐の組み合わせ			
第13週	FTP	FTPの仕組み			
第14週	FTP	FTPの利用			
第15週	FTP	FTPによる課題の提出			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	情報メディア	情報メディアの歴史			
第17週	電子メール1	基本的な電子メールのマナー			
第18週	電子メール2	WEBメール、メーリングリスト			
第19週	電子メール3	スパム、メールヘッダー、暗号化			
第20週	情報化社会	ユビキタス社会			
第21週	情報検索	電子辞書			
第22週	後期中間テスト				
第23週	情報検索	情報検索方法・シソーラス			
第24週	情報セキュリティ1	コンピュータ管理(ウイルス・スパイウェア等)			
第25週	情報セキュリティ2	有害情報・情報規制			
第26週	情報セキュリティ3	情報化社会と個人情報保護			
第27週	インターネットメディア	インターネットメディア&放送の仕組み			
第28週	インターネットメディア	インターネットメディアとマスメディア			
第29週	ネットと教育	高等教育でのeラーニング			
第30週	ネットと教育	企業でのeラーニング			
後期期末試験	実施する				
教科書	インターネット社会を生きるための情報倫理(改訂版) 実教出版 ホームページ制作 河西朝雄 技術評論社				
参考図書	IT時代の危機管理入門 情報セキュリティ読本 実教出版 Javascript 河西朝雄 技術評論社				
評価方法	テスト70%、課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
コミュニケーション論 Introduction to Communication Science	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	基本的数理解析法を学び、事例分析能力を育成する。				
到達目標	(1)関数とグラフを理解し、解析幾何の基本問題が解ける。 (2)システム・シンキングの手法を理解し、事例分析ができる。 (3)確率・エントロピーの意味を理解し、基本的計算問題が解ける。 (4)コミュニケーションモデルを理解し、簡単な事例分析ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-1), (D-5).				
履修上の注意	問題を数多く解き、基本概念の理解に努めること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	基礎数学の復習(1)	直線の方程式の演習			
第2週	基礎数学の復習(2)	二次関数の復習			
第3週	基礎数学の復習(3)	二次方程式、二次不等式の復習			
第4週	基礎数学の復習(4)	グラフと不等式の復習			
第5週	基礎数学の復習(5)	関数とグラフの総合演習(1)			
第6週	基礎数学の復習(6)	関数とグラフの総合演習(2)			
第7週	前期中間試験				
第8週	システム・シンキング入門(1)	ロジックツリーとその応用			
第9週	システム・シンキング入門(2)	システムの定義とその具体例			
第10週	システム・シンキング入門(3)	フィードバックシステムとその応用			
第11週	システム・シンキング入門(4)	フィードフォワードシステムと予言の自己成就			
第12週	システム・シンキング入門(5)	拡張フィードバックループ			
第13週	システム・シンキング入門(6)	バランス・フィードバック・ループ			
第14週	システム・シンキング入門(7)	事例分析			
第15週	システム・シンキング入門(8)	社会的出来事をシステムを使って解析する			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	情報理論入門(1)	確率の基本的性質			
第17週	情報理論入門(2)	確率計算の演習			
第18週	情報理論入門(3)	指数関数の基本的性質			
第19週	情報理論入門(4)	指数関数の演習			
第20週	情報理論入門(5)	対数関数の基本的性質			
第21週	情報理論入門(6)	対数関数の演習			
第22週	後期中間試験				
第23週	情報理論入門(7)	エントロピーの基本的性質			
第24週	情報理論入門(8)	エントロピーの演習(1)			
第25週	情報理論入門(9)	エントロピーの演習(2)			
第26週	情報理論入門(10)	総合演習			
第27週	コミュニケーション論入門(1)	シャノン・ウィーバーのコミュニケーションモデル			
第28週	コミュニケーション論入門(2)	シャノン・ウィーバーの拡張コミュニケーションモデル			
第29週	コミュニケーション論入門(3)	メタコミュニケーションモデル			
第30週	コミュニケーション論入門(4)	総合演習			
後期期末試験	実施する				
教科書	システム・シンキング入門、西村行功、日本経済新聞社				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%、小テスト及び課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジュアル情報演習 Visual Introduction Practice	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	内山 昭代
授業概要	情報化社会の中でビジュアル情報がどのように必要とされ活用されるかを認識し、様々な伝達方法と媒体に合わせたビジュアル表現技術の基礎と画像作成、応用創作等のステップ踏みながらビジュアル情報の伝達方法、作成方法を学習する。				
到達目標	①ビジュアル情報の構成要素である文章、図を作成、テーマに添ってデザイン構成することができる。 ②色彩学の基礎を学習し、情報に不可欠な文章や画像に、効果的な色彩を使うことができる。 ③立体や空間の概念を学習し、広い空間や立体感をデザイン表現することができる。 ④様々な情報媒体を学習し、媒体特性に合ったデザイン表現ができる。 ⑤コンピュータのアプリケーション機能を使用して基礎デザインから応用デザイン制作ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3). (E-4).				
履修上の注意	テーマに添ったアイデアから制作、デザイン構成、仕上げまでの表現技術と制作工程が習得できるよう留意する。コンピュータ操作の基本から応用までを、ステップを踏みながらスキルアップできるよう留意する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	テーマに添った鉛筆デッサン	「手」にまつわるエッセイを考案しながら手をデッサンする			
第2週	テーマに添った鉛筆デッサン	「手」の柔らかさ、皮膚の質感を認識したデッサン			
第3週	「手」をテーマにしたエッセイの作成	「手」にまつわるエッセイをレイアウトも意識して書く			
第4週	エッセイの入力	フォントの選択、文字の大きさ、レイアウト効果を意識する			
第5週	デッサンとエッセイのデザイン構成	デッサンのコピーと出力したエッセイをデザイン構成する			
第6週	デッサンとエッセイのデザイン構成	デッサンのコピーと出力したエッセイをデザイン構成する			
第7週	色彩学入門-1とカラーチャート制作	色彩の三原色の混色の基礎知識と台紙制作			
第8週	色彩学入門-1とカラーチャート制作	色彩の三原色の混色と彩色、カラーチャート制作			
第9週	色彩学入門-1とカラーチャート制作	色彩の三原色の混色と彩色、カラーチャート制作			
第10週	立体と空間表現	立体作図と空間構成のアイデアスケッチ			
第11週	立体と空間表現	アイデアスケッチを台紙に作図、構成する			
第12週	立体と空間表現	暖色、寒色を学習し、配色構成を決める			
第13週	立体と空間表現	構成したデザインに彩色する			
第14週	立体と空間表現	構成したデザインに彩色する			
第15週	立体と空間表現	構成したデザインに彩色、仕上げる			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	直線とデザイン	直線と色彩を使ったデザイン構成			
第17週	放射線とデザイン	放射線と色彩を使ったデザイン構成			
第18週	放物線と線のデザイン構成	直線、放射線、放物線と色彩を使ったデザイン構成			
第19週	放物線と線のデザイン構成	直線、放射線、放物線と色彩を使ったデザイン構成			
第20週	グラデーションとデザイン	グラデーションの色彩編集とデザイン構成			
第21週	スパイラルとデザイン	スパイラルの作図と線の色彩構成			
第22週	スパイラルとデザイン	スパイラルの作図と線の色彩構成			
第23週	スパイラルとデザイン	スパイラルの作図と線の色彩構成			
第24週	スパイラルとデザイン	スパイラルの作図と線の色彩構成			
第25週	色彩学入門-2	光と色彩の三原色			
第26週	色彩学入門-2	色相環と色彩の伝達(配色)			
第27週	CDジャケット制作	色彩と配色			
第28週	CDジャケット制作	配色を意識したデザイン制作			
第29週	CDジャケット制作	タイトル文字の読みやすさを意識したデザイン制作			
第30週	CDジャケット制作	制作仕上げとレポート制作			
後期期末試験	実施しない				
教科書	色彩, 大井義雄他, 美術出版社				
参考図書	デザインの色彩, 中田満雄他, 日本色研事業				
評価方法	課題作品80%,制作レポート20%で総合評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス事情Ⅱ Business TopicsⅡ	2	1 (30)	必修	後期 週2時間 B	遠原 智文 渡部 順一
授業概要	ビジネスに関連する基礎的な政治・経済問題について学ぶ。				
到達目標	①世界経済に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。 ②世界政治に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1).				
履修上の注意	新聞等を毎日読んで、最新の政治・経済問題についての情報を収集すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 政治経済問題(1) 政治経済問題(2) 政治経済問題(3) 政治経済問題(4) 政治経済問題(5) 総合演習 政治経済問題(6) 政治経済問題(7) 政治経済問題(8) 政治経済問題(9) 政治経済問題(10) 政治経済問題(11) 政治経済問題(12) 総合演習 実施する	授業の進め方およびレポートの書き方 イラク アフガニスタン パレスチナ チェチェン 最新の政治経済ニュースを読む 確認テスト 北朝鮮 インドとパキスタン 核兵器の拡散 チェルノブイリ アウン・サン・スーチー 東ティモール独立 最新の政治経済ニュースを読む 復習			
教科書	教養の政治学・経済学, 香川勝俊, 学術図書出版社 そうだったのか現代史パート2, 池上彰, ホーム社				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 確認テストおよび課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
セミナー Seminar	3	1 (30)	必修	通年 週1時間 C	コミュニケーション情報学科 全教員
授業概要	専門科目取得に必要な基礎科目を演習形式で学ぶ。				
到達目標	教検準2級程度、英検2級程度、日商簿記3級程度の問題は完全にとけるようにしたい。				
教育目標 との対応	福島高専の教育目標との対応:(B・2), (B・4).				
履修上の注意	教検、英検、日商簿記の資格試験を積極的に受験し、目標に近づけたい。				
授業計画	<p>第1週～第10週 数学 教検準2級程度の数学基礎力を問題演習を通じて養成する。</p> <p>第11週～第20週 英語 最新の英文記事を読み、また音声変化のリスニングを中心に問題を解き英検2級、TOEIC等に対応できる基礎力を養成する。</p> <p>第21週～第30週 簿記 課題を与えて時間内に解く形式で日商簿記3級の合格を目標にする。</p>				
教科書	配布資料				
参考図書					
評価方法	<p>数学、英語、簿記のテスト 70%、 課題 30%で総合的に評価する。</p>				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報統計 Introduction to Statistics	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	確率、分布(特に正規分布)の基礎を学ぶ。				
到達目標	(1)確率の概念を理解し、基本的な確率の計算ができる。 (2)確率分布の概念を理解し、確率分布表、平均値、分散等の計算ができる。 (3)二項分布、ポアソン分布及び正規分布が理解でき、確率等が計算できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-1). (D-3). (D-4). (D-5).				
履修上の注意	統計的手法を習得するために問題を数多く解くこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	確率論入門(1)		個数の数え方		
第2週	確率論入門(2)		順列		
第3週	確率論入門(3)		順列の応用		
第4週	確率論入門(4)		組合せ		
第5週	確率論入門(5)		組合せの応用		
第6週	確率論入門(6)		確率の意味		
第7週	前期中間試験				
第8週	確率論入門(7)		確率の基本性質		
第9週	確率論入門(8)		条件付確率		
第10週	確率論入門(9)		確率の乗法定理		
第11週	確率論入門(10)		ベイズの定理		
第12週	確率論入門(11)		確率変数		
第13週	確率論入門(12)		確率変数の平均と分散		
第14週	確率論入門(13)		確率変数の和と積		
第15週	総合演習(1)		前期のまとめ		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	確率分布入門(1)		二項分布		
第17週	確率分布入門(2)		ポアソン分布		
第18週	確率分布入門(3)		二項分布とポアソン分布の関係		
第19週	確率分布入門(4)		正規分布		
第20週	確率分布入門(5)		正規分布表の使い方		
第21週	確率分布入門(6)		問題演習(1)		
第22週	後期中間試験				
第23週	確率分布入門(7)		問題演習(2)		
第24週	確率分布入門(8)		正規分布と二項分布の関係		
第25週	確率分布入門(9)		問題演習		
第26週	確率分布入門(10)		中心極限定理		
第27週	確率分布入門(11)		正規分布の応用		
第28週	確率分布入門(12)		正規分布の問題演習		
第29週	総合演習(2)		1年間のまとめ		
第30週	総合演習(3)		1年間のまとめ		
後期期末試験	実施する				
教科書	確率統計、田河生長著、大日本図書				
参考図書					
評価方法	定期試験80%、小テスト20%で評価します。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報コミュニケーション Computer Science and Manufacturing Systems	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	芥川 一則
授業概要	業務の効率化をはかるコンピュータの利用法について理解する。 業務をコンピュータで処理する手順を習得する。				
到達目標	①業務の問題点を把握する方法を身につける。 ②業務の効率化の方法を身につける。 ③業務におけるコンピュータの利用法を理解する。 ④初級システムアドミニストレータの資格を取得できるようにする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (C-2). (D-2). (E-2). (F-3).				
履修上の注意	問題の解法を中心に行うので、十分に復習して解法を理解しておくこと。 授業時間ごとの予習、復習に努めること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	業務改善	仕事の進め方の改善			
第2週	コンピュータシステム	データと処理の流れをつかまえる技法			
第3週	データの処理	データの直感的な表し方			
第4週	意思決定の手法	KJ法と決定表			
第5週	入出力設計	入力設計と画面出力			
第6週	前期中間総合演習	専門用語の確認			
第7週	前期中間試験				
第8週	テストラン、システム運用	テストおよび検収、稼働率、信頼度			
第9週	本体と周辺機器	性能と装置、周辺機器、性能評価			
第10週	ソフトウェア	基本ソフトウェア、応用ソフトウェア			
第11週	表計算ソフト	概要と操作			
第12週	データベースソフト	DBMS、選択、射影、統合、SQL			
第13週	コンピュータネットワーク	LAN、インターネット			
第14週	ハード・ソフトの導入とインストール	ハードウェアのセットアップ、ファイル管理、セキュリティ管理			
第15週	前期総復習	専門用語の確認			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	業務の分析と改善(1)	受注業務、在庫管理業務			
第17週	業務の分析と改善(2)	定量的効果、定性的効果			
第18週	基幹業務システム(1)	入出力画面の設計支援			
第19週	基幹業務システム(2)	システムのテスト支援			
第20週	コンピュータの実践知識(1)	ネットワーク運用管理			
第21週	後期中間総合演習	専門用語の確認			
第22週	後期中間試験				
第23週	コンピュータの実践知識(2)	アクセス制御			
第24週	管理者の業務(1)	暗号化とその技術			
第25週	管理者の業務(2)	デジタル署名			
第26週	表計算ソフト(1)	絶対参照、関数			
第27週	表計算ソフト(2)	グラフ機能			
第28週	データベースソフト(1)	SQL文によるデータの更新、挿入、削除			
第29週	データベースソフト(2)	クライアントサーバ型のデータベースシステム			
第30週	総合復習	専門用語の確認			
後期期末試験	実施する				
教科書	初級シスアド標準問題集、早川芳彦監修、オーム社編				
参考図書	初級シスアド標準教科書、早川芳彦他、オーム社 初級シスアド完全解答、オーム社編				
評価方法	定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報コミュニケーション演習 Seminar on Computer Science and Manufacturing Systems	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	島村 浩
授業概要	情報処理技術者に必要なコンピュータの知識を演習や実習を通して修得する。				
到達目標	ハードウェアに関する基礎知識を理解し、説明ができること。 ソフトウェアに関する基礎知識を理解し、説明ができること。 プログラムに関する基礎知識を理解し、説明ができること。 プログラミングに関する基礎知識を理解し、簡単なプログラムが作成できること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (B-4). (C-2).				
履修上の注意	基本事項の理解に十分努めること。授業内容は、上限ではなく、下限である。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ハードウェアに関すること(1)	情報素子、プロセッサ、メモリ			
第2週	ハードウェアに関すること(2)	記憶装置、入出力装置			
第3週	ハードウェアに関すること(3)	コンピュータの種類、組み込みシステム			
第4週	ソフトウェアに関すること(1)	オペレーティングシステム			
第5週	ソフトウェアに関すること(2)	プログラミング言語			
第6週	ソフトウェアに関すること(3)	ファイル管理			
第7週	システムの構成と方式に関すること(1)	システムの構成			
第8週	システムの構成と方式に関すること(2)	性能、信頼性			
第9週	システム応用に関すること(1)	ネットワーク			
第10週	システム応用に関すること(2)	データベース			
第11週	セキュリティに関すること(1)	セキュリティ、リスク			
第12週	セキュリティに関すること(2)	ガイドライン			
第13週	標準化に関すること(1)	各種の標準化			
第14週	標準化に関すること(2)	標準化の例			
第15週	総合演習	基礎知識の確認			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	プログラミング基礎(1)	アルゴリズムとデータ構造			
第17週	プログラミング基礎(2)	アルゴリズムの記述方法			
第18週	プログラミング基礎(3)	順次構造			
第19週	プログラミング基礎(4)	選択構造			
第20週	プログラミング基礎(5)	反復構造			
第21週	プログラミング基礎(6)	1次元配列			
第22週	プログラミング基礎(7)	2次元配列			
第23週	プログラミング基礎(8)	文字列			
第24週	プログラミング基礎(9)	グラフィックス			
第25週	プログラミング基礎(10)	ファイル			
第26週	総合実習(1)	課題プログラムの作成			
第27週	総合実習(2)	課題プログラムの作成			
第28週	総合実習(3)	課題プログラムの作成			
第29週	総合実習(4)	課題プログラムの作成			
第30週	最新技術動向	プログラミング言語の種類			
後期期末試験	実施しない				
教科書	実習 Visual Basic.NET—だれでもわかるプログラミング—、林直嗣、室井勝子、鈴木三枝子、サイエンス社				
参考図書					
評価方法	小テスト、課題・レポートなど平素の成績を100%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報メディア論 Information Media	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	森川 治 布施雅彦
授業概要	電子情報メディアを活用し、安全で有効なネットワークメディアの活用について学習するとともに、メディア社会を主体的に生きていく上で必要となるメディアリテラシーを学習する。				
到達目標	(1)メディアリテラシーを理解し、ニュースを多角的に読むことができる。 (2)ニュース特に社説を読み比べることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (D-3). (D-4). (D-5).				
履修上の注意	コンピュータやインターネットを頻繁に利用するため、機器の操作には慣れておくこと。積極的に取り組むこと。常にメディアを比較しつつ、「ニュース」を読むこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ガイダンス	メディアリテラシーとは			
第2週	作られるニュース(1)	ニュースとは何か			
第3週	作られるニュース(2)	擬似イベント論の衝撃			
第4週	ニュースの機能と受容メカニズム(1)	ニュースの機能			
第5週	ニュースの機能と受容メカニズム(2)	ニュースの効果と影響			
第6週	総合演習(1)	最近のニュースを読む			
第7週	前期中間試験				
第8週	総合演習(2)	最近のニュースを読む			
第9週	ニュースの制約(1)	行政ニュースの取材をめぐる自由と制約			
第10週	ニュースの制約(2)	裁判ニュースの取材と公表			
第11週	ニュースの制約(3)	選挙報道の制約			
第12週	ニュースの制約(4)	放送ニュースの制約			
第13週	総合演習(3)	最近のニュースを読む			
第14週	総合演習(4)	最近のニュースを読む			
第15週	総合演習(4)	前期のまとめ			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	情報メディア	情報メディアの歴史			
第17週	電子メール1	基本的な電子メールのマナー			
第18週	電子メール2	電子メールの応用的な利用			
第19週	レポート1	レポートの書き方			
第20週	情報化社会	ユビキタス社会			
第21週	レポート2	レポートの書き方			
第22週	情報検索1	電子辞書			
第23週	情報検索2	情報検索方法			
第24週	情報セキュリティー1	コンピュータ管理(ウイルス・スパイウェア等)			
第25週	情報セキュリティー2	倫理情報・情報規制			
第26週	情報セキュリティー3	情報化社会と個人情報保護			
第27週	インターネットメディア1	インターネットメディア&放送の仕組み			
第28週	インターネットメディア2	インターネットメディアとマスメディア			
第29週	ネットと教育1	高等教育でのeラーニング			
第30週	ネットと教育2	企業・一般でのeラーニング			
後期期末試験	実施しない				
教科書	前期:現代ニュース論、大石裕著、有斐閣 後期:インターネット社会を生きるための情報倫理(改訂版) 実教出版				
参考図書	IT時代の危機管理入門 情報セキュリティー読本 実教出版				
評価方法	前期:定期試験100%で評価する。 後期:レポート60% 課題40%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
財務会計 Financial Accounting	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	渡部 美紀子
授業概要	財務会計は、株主、債権者、政府など企業外部の利害関係者への報告を目的とする会計である。財務会計を学習するためには複式簿記の理解が必要不可欠である。本講義では主に日商3級レベルの財務諸表について学習する。				
到達目標	①基本的な仕訳と転記ができる。 ②試算表やその他帳簿の作成ができる。 ③個人企業における財務諸表の作成手続きを理解できる。 ④11月・2月に実施される簿記検定の合格を目標とし、検定問題を解くことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1). (D-1).				
履修上の注意	1つでも多くの類問を解くことが理解を定着させる秘訣である。制限時間内に試験問題を解くことができるようになるためには、積極的な自己学習が必須である。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 貸借対照表、損益計算書 日常の手続き 決算の手続き(1) 商品売買(1) 商品売買(2) 復習 現金と預金(1) 現金と預金(2) 手形(1) 手形(2) その他の債権債務(1) その他の債権債務(2) 有価証券 復習 実施する 有形固定資産 決算の手続き(2) 決算の手続き(3) 精算表(1) 精算表(2) 財務諸表 復習 帳簿(1) 帳簿(2) 帳簿(3) 試算表(1) 試算表(2) 日商3級試験演習(1) 日商3級試験演習(2) 日商3級試験演習(3) 実施する	授業の進め方、検定試験について 貸借対照表、損益計算書の基本構造 取引、仕訳、勘定と転記 試算表、6桁精算表、帳簿の締め切り 三分法、掛取引 返品と値引、商品売買の諸費用 これまでの復習、問題演習 現金と当座預金の区別 当座借越、小口現金 約束手形、為替手形 割引、裏書 手形貸付金・手形借入金等 仮払金・仮受金等 有価証券の処理 これまでの復習、問題演習 有形固定資産の処理 決算整理記入、売上原価 消耗品、費用・収益の見越しと繰延べ 8桁精算表の作成 8桁精算表の作成 損益計算書・貸借対照表 精算表の作成演習 仕訳帳と元帳、手形記入帳等 商品有高帳、仕入元帳・得意先元帳 3伝票制、5伝票制 合計試算表 合計残高試算表			
教科書	『日商簿記3級 とおるテキスト』、『日商簿記3級 とおるゼミ』、『3級日商簿記過去問題集2006年秋対策用』、TAC出版				
参考図書					
評価方法	定期試験80%、課題20%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
マクロ・ミクロ経済 Macro/micro economics	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	芥川 一則
授業概要	経済の仕組み、個人と社会のかかわりという観点から経済学の基礎を学習する。				
到達目標	①経済学の基礎知識を身につける。 ②経済学の基本理論を理解する。 ③経済学的な視点を身につける。 ④経済学的資料を読めるようにする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1).				
履修上の注意	積極的に新聞等の経済記事を読むよう努めること。授業時間ごとの予習、復習に努めること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	はじめに	導入と授業の進め方			
第2週	経済学的な考え方(1)	基本的な競争モデル			
第3週	経済学的な考え方(2)	インセンティブ、費用			
第4週	交換と生産(1)	経済的相互間の便益			
第5週	交換と生産(2)	国際相互依存関係にみられる費用			
第6週	前期中間総合演習	専門用語の確認			
第7週	前期中間試験				
第8週	需要・供給と価格	需要・供給の法則			
第9週	需要・供給分析の応用(1)	需要の価格弾力性			
第10週	需要・供給分析の応用(2)	供給の価格弾力性			
第11週	需要・供給分析の応用(3)	需要・供給法則への介入			
第12週	時間とリスク(1)	利子			
第13週	時間とリスク(2)	貸付資金市場			
第14週	時間とリスク(3)	資産市場			
第15週	前期総合復習	専門用語の確認			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	時間とリスク(4)	リスク市場			
第17週	公共部門(1)	政府とは何か			
第18週	公共部門(2)	政府の経済的役割その1			
第19週	公共部門(3)	政府の経済的役割その2			
第20週	経済指標の見方(1)	GDPとは何か			
第21週	後期中間総合演習	専門用語の確認			
第22週	後期中間試験				
第23週	経済指標の見方(2)	三面等価の原則			
第24週	GDPの決定(1)	ケインズ型の消費関数と貯蓄関数			
第25週	GDPの決定(2)	乗数の理論			
第26週	消費と投資(1)	ケインズの投資理論			
第27週	消費と投資(2)	新古典派の投資理論			
第28週	貨幣の需要と供給(1)	貨幣とは何か			
第29週	貨幣の需要と供給(2)	貨幣の需要			
第30週	後期総合復習	専門用語の確認			
後期末試験	実施する				
教科書	スティグリッツ入門経済学、ジョセフ・E・スティグリッツ著;プリント資料他				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジュアル情報 Visual Information Practice	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	内山 昭代
授業概要	情報化社会で求められる中で重要なビジュアル情報を、テーマに添って計画を立て、基本画像、応用画像、創作画像等のステップを踏みながら作成し、媒体目的に合わせたビジュアル表現技術を学ぶ。				
到達目標	①コンピュータグラフィックスの基本デザインの表現技術を身につける。 ②モニター画面上での効果的なビジュアル処理技術を身につける。 ③創造、制作したビジュアル情報を他媒体へ応用する技術を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3). (E-3). (E-4).				
履修上の注意	コンピュータ上での基礎デザインを応用したビジュアル表現技術、情報の送り手側のビジュアル表現技術を明確にし、受け手側に伝わりやすいビジュアル情報制作に留意する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	自然とデッサン	植物をペイント画像に描写する。			
第2週	課題/スカーフデザイン	植物のスカーフデザイン制作			
第3週	課題/スカーフデザイン	植物のスカーフデザイン制作とレポート制作			
第4週	言葉とイメージ	愛のイメージデザイン制作			
第5週	言葉とイメージ	愛のイメージデザイン制作			
第6週	言葉とイメージ	愛のイメージデザイン鑑賞・レポート制作			
第7週	色彩学演習	色彩コーディネート「ことばあそび」			
第8週	色彩学演習	色彩コーディネート「ことばあそび」			
第9週	色彩学演習	色彩コーディネート「ことばあそび」			
第10週	色彩学演習	色彩コーディネート「ことばあそび」			
第11週	色彩学演習	色彩コーディネート「ことばあそび」・レポート制作			
第12週	.絵本デザイン制作	課題「ことばあそび」			
第13週	.絵本デザイン制作	課題「ことばあそび」			
第14週	.絵本デザイン制作	課題「ことばあそび」			
第15週	.絵本デザイン制作	課題「ことばあそび」・レポート制作			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	本の歴史、紙・印刷の歴史	本の形ができた古代文明、紙と印刷の歴史を理解する			
第17週	ブックデザイン	本の名称と構造、背の名称と本の形態、本のプレゼンテーション			
第18週	ブックデザイン	テーマ別本の内容熟読・イメージ構築			
第19週	ブックデザイン	表紙デザインイメージと表紙デザイン制作			
第20週	ブックデザイン	表紙デザイン制作			
第21週	ブックデザイン	表紙デザイン、制作レポート提出			
第22週	アニメーション	その歴史、パラパラアニメの原理			
第23週	アニメーション	「8コマの動き-創作」制作			
第24週	課題「WORD」	形と色彩の変化-24コマ以上制作			
第25週	課題「WORD」	形と色彩の変化-24コマ以上制作			
第26週	最終課題(選択)	ブックデザイン、CDジャケット、アニメ制作			
第27週	最終課題	ブックデザイン、CDジャケット、アニメ制作			
第28週	最終課題	ブックデザイン、CDジャケット、アニメ制作			
第29週	最終課題	ブックデザイン、CDジャケット、アニメ制作			
第30週	最終課題	ブックデザイン、CDジャケット、アニメ制作・レポート制作			
後期期末試験	実施しない				
教科書	プリント(本の名称-外側、背、内側)及びスライド(本の歴史);ことばあそびうた、谷川俊太郎、福音館書店				
参考図書	アニメーション、ジョン・ハラス他1名、ダヴィッド社				
評価方法	課題作品提出を70%、レポート提出を30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
コミュニケーション論 Introduction to Communication Science	3	0 (60)	必修	通年 週2時間 B	鈴木 敬了
授業概要	「コミュニケーション」は広範囲にわたるが、特に英語によるコミュニケーションに焦点をあてる。				
到達目標	(1)従来の英文法の問題点を理解する。 (2)日本人学習者が苦手とする冠詞の用法をマスターする。 (3)日本語からの直訳では問題が生じる使役表現、時制についてマスターする。 (4)語用論の観点からコミュニケーション上の含意についての理解を深める。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6).				
履修上の注意	毎回授業の開始時にディクテーションテストを行うので遅れないこと。また全員を指名するので必ず予習してくること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	コミュニケーション論入門	その定義と特徴			
第2週	コミュニケーション英語学(1)	前置詞(1)			
第3週	コミュニケーション英語学(2)	前置詞(2)			
第4週	コミュニケーション英語学(3)	時制(1)			
第5週	コミュニケーション英語学(4)	時制(2)			
第6週	コミュニケーション英語学(5)	時制(3)			
第7週	前期中間試験				
第8週	コミュニケーション英語学(6)	時制(4)			
第9週	コミュニケーション英語学(7)	時制(5)			
第10週	コミュニケーション英語学(8)	仮定法(1)			
第11週	コミュニケーション英語学(9)	仮定法(2)			
第12週	コミュニケーション英語学(10)	冠詞と数(1)			
第13週	コミュニケーション英語学(11)	冠詞と数(2)			
第14週	コミュニケーション英語学(12)	冠詞と数(3)			
第15週	コミュニケーション英語学(13)	使役(1)			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	コミュニケーション英語学(14)	使役(2)			
第17週	コミュニケーション英語学(15)	句動詞(1)			
第18週	コミュニケーション英語学(16)	句動詞(2)			
第19週	コミュニケーション英語学(17)	句動詞(3)			
第20週	コミュニケーション英語学(18)	接続詞(1)			
第21週	コミュニケーション英語学(19)	接続詞(2)			
第22週	後期中間試験				
第23週	コミュニケーション英語学(20)	接続詞(3)			
第24週	コミュニケーション英語学(21)	関係詞(1)			
第25週	コミュニケーション英語学(22)	関係詞(2)			
第26週	コミュニケーション英語学(23)	関係節(3)			
第27週	コミュニケーション英語学(24)	能動態と受動態(1)			
第28週	コミュニケーション英語学(25)	能動態と受動態(2)			
第29週	語用論(1)	会話の含意			
第30週	語用論(2)	間接表現とボライテネス理論			
後期期末試験	実施する				
教科書	「痛快！コミュニケーション英語学」マーク・ピーターセン著、集英社インターナショナル				
参考図書					
評価方法	定期試験90%、小テスト10%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
心理学入門 Introduction to Psychology	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 順一
授業概要	心理学の基礎について、学習する。				
到達目標	心理学の基本概念を身に着ける。 ①ライフサイクルの概念が分かり、表を用いて説明できる。 ②動機づけの概念が分かり、図を用いて説明ができる。 ③心のしくみの概念が分かり、感覚、知覚、記憶、学習、思考について説明ができる。 ④生涯発達心理学の概念が分かり、説明ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-3). (D-3).				
履修上の注意	社会の出来事について、心理学の観点から分析することに関心をもって欲しい。必要に応じて授業のまとめを提出してもらう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 イントロダクション 第2週 心理学とは 第3週 心の進化 第4週 心の発達 第5週 ライフサイクルと青年期 第6週 これまでの復習 第7週 前期中間試験 第8週 動機づけ 第9週 性格 第10週 知能 第11週 ストレスとメンタルヘルス 第12週 カウンセリングと心理療法 第13週 感覚 第14週 知覚 第15週 これまでの復習 前期期末試験 実施する 後期 第16週 記憶 第17週 学習 第18週 思考 第19週 脳と心 第20週 脳損傷と心の働き 第21週 これまでの復習 第22週 後期中間試験 第23週 社会のなかの人 第24週 心と社会 第25週 生涯発達心理学その1 第26週 生涯発達心理学その2 第27週 ケースを読むその1 第28週 ケースを読むその2 第29週 これまでの復習その1 第30週 これまでの復習その2 後期期末試験 実施する	授業の進め方について 歴史と方法 動物としての人間 乳幼児期の心理 自分を見つめる ひとを動かすもの その人らしさとは 「頭がよい」とはどういうことか ストレスをどのように乗り越えるか 心の危機を乗り越える 心の窓 見えの世界を作り上げる 覚えることと忘れること 経験を生かすこと 論理と直観 心の生物学的基礎 失認・失語・健忘の症例に学ぶ 他者による影響と他者の認知 協調と信頼 しくみを知る 「移行期」とは何か 心理学と社会のかかわりを学ぶ 心理学と社会のかかわりを学ぶ				
教科書	『はじめて出会う心理学』長谷川寿一他、有斐閣アルマ。配布資料。				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績80%、授業のまとめ20%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
マルチメディアⅡ Multimedia II	3	1 (30)	選択	前期 週2時間 C	布施 雅彦
授業概要	イラストや画像・写真など、さまざまな画像表現・処理について学習する。				
到達目標	1. 画像に関する基本的な知識を身につける。 2. 画像を利用目的に合わせて、加工・編集・印刷ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-1). (F-1).				
履修上の注意	メディアの特性を生かして表現できるように注意する。機器などを大切に扱うこと。著作権に気をつけること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	マルチメディア媒体 映像形態 画像入出力 配置 色彩1 色彩2 文字1 文字2 画像編集1 画像編集2 画像編集3 画像編集4 製作1 製作2 製作3 実施しない	コンテンツの分類 画像形態と映像の仕組み 画像の入力と出力 配置と構図、トリミング 画像補正(明るさ) 画像補正(カラー) タイポグラフィ 文字の加工・文字の画像化と合成 画像効果 切り抜き 合成 写真の調整 オリジナル画像の製作 オリジナル画像の製作 オリジナル画像の製作			
教科書	速効! PhotoShop Elements 4.0 毎日コミュニケーションズ				
参考図書	Multimedia Literacy Fred T.Hofstetter ITEC				
評価方法	小テスト30% 課題70%で総合的に評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
セクレタリー Secretary Practica	3	1 (30)	選択	集中 週0時間 C	松江 俊一
授業概要	秘書実務及びビジネスの実務マナーと理論をパフォーマンス学の基礎を通して体験的に学ぶ。				
到達目標	①ビジネス社会に必須の行動基礎知識を習得する。 ②ビジネス能力検定3級、秘書検定2級合格を目標とする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3)				
履修上の注意	社会人として最低限のマナーを習得する。学生の甘えを捨て、社会に出て働くという心構えを持つこと。集中講義開始前までに指定教科書を読み、内容の把握を事前にしておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	職場と人間関係1 職場と人間関係2 秘書の資質、職務知識 敬語の使い方1 敬語の使い方2 マナー接遇トレーニング(1) マナー接遇トレーニング(2) マナー接遇トレーニング(3) マナー接遇トレーニング(4) 秘書技能トレーニング(1) 秘書技能トレーニング(2) 秘書技能トレーニング(3) テーブル・ビジネスマナー 筆記試験 実技試験 実施しない	マズローの欲求段階説、高(低)コンテクスト文化、表現欲求の構造 非言語コミュニケーションの重要性 上司と秘書の関係、上司の機能・秘書の機能、機密保持 尊敬語と謙譲語の使い分け 一般の表現と接遇用語の使い分け、二重敬語の効用と弊害 受付と取次ぎ方、来客接待 電話の受け方、かけ方、取次ぎ方 説得、忠告、断りの話法 慶事・弔事のマナーと庶務 会議準備、社内文書の作成 社外文書の作成 取引に関する文書の作成 和食の作法、洋食の作法(着席スタイル、立食スタイル)			
教科書	『これ1冊!秘書技能検定・2級・合格ブック』松田満江著、成美堂出版;プリント配付				
参考図書	『自分をどう表現するか パフォーマンス学入門』佐藤綾子著、講談社 / 『ビジネス能力検定3級テキスト』(財)専修学校教育振興会				
評価方法	講義中の筆記試験 30%、実技試験 40%、定期試験(後期中間試験時)の筆記試験 30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
セミナー Seminar	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	コミュニケーション情報学科 全教員
授業概要	5年次卒業研究のプレ演習として各教員の研究室に配属する。				
到達目標	各教員の研究領域を知り、卒業研究の方向性を決める。				
教育目標 との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (B-4).				
履修上の注意	自ら主体的に問題を発見し、その解決法を探り自主性、独創性、創造性を培って欲しい。 なお、配属先の決定は各教官の選抜に委ねられるが、各研究室の定員は概ね5名程度内である。				
授業計画					
森川 治	テーマ : ゲーム理論入門	評価方法 : レポート			
内山昭代	テーマ : シンボルマーク制作と媒体展開	評価方法 : 作品提出 (70%), レポート提出(30%)			
渡部順一	テーマ : 変革期の組織について学ぶ	内容 : 文献の輪読、調査、及び討論	評価 : 作成したレジメ、発表原稿、及び発表内容		
田代 均	テーマ : 生産管理、品質管理	内容 : 各々のテーマに関する文献あるいは書籍の内容をレジюмеにまとめ、発表と討論を行う	評価方法 : レポート		
芥川一則	テーマ : 都市・地域経済学	内容 : ゼミ形式で授業を行う	テキスト : 「都市経済学の基礎」有斐閣アルマ 評価 : 定期試験 (70%)、発表内容(30%)		
鈴木敬了	テーマ : 英語学	内容 : 英語学に関する概説書を中心に講読し発表する	評価方法 : ハンドアウト作成、試験またはレポートで評価する		
渡部美紀子	テーマ : 財務会計論	授業方法 : 会計学に関する文献を輪読・討論	評価方法 : 発表の内容またはレポート		
島村浩	テーマ : ソフトウェア開発技術について	評価方法 : 課題およびレポート			
布施雅彦	テーマ : eラーニングとマルチメディアコミュニケーション	内容 : ゼミと演習 評価 : レポートと課題			
松江俊一	テーマ : 言語文化社会論入門	内容 : ゼミ形式の授業 (前半)、文献購読および発表 (後半) 評価 : レポート70%、発表30%			
遠原智文	テーマ : 経営学に関する文献講読, 演習	評価方法 : テスト, 発表内容, レポート			
教科書	各教員の指示による				
参考図書					
評価方法	各教員の評価基準により判定する(授業計画の欄参照)				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
パブリック・スピーキング I Public Speaking I	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	鈴木 敬了
授業概要	各トピックに関するリスニングとリーディングを通してさまざまな表現、語彙等に習熟し各自のプレゼンテーションに役立てる。				
到達目標	(1)ディクテーションを通して英語の音声の聞き取り、および単語の綴りに習熟する。 (2)プレゼンテーションのテキストのパスセージに出てくる重要表現に習熟する。 (3)プレゼンテーションの構成およびサインポスト(つなぎ語)を使うことができる。 (4)プレゼンテーションの準備を通して英語の正しい発音、リズム等をマスターする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	毎回授業の開始時にディクテーションテストを行うので遅れないこと。また全員を指名するので必ず予習してくること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Unit 1 Learning with a purpose (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第2週	Unit 1 Learning with a purpose (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第3週	Unit 2 Speaking up in class (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第4週	Unit 2 Speaking up in class (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第5週	Unit 3 Information everywhere (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第6週	Unit 3 Information everywhere (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第7週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集と原稿作成			
第8週	プレゼンテーションの準備(2)	英語の発音、イントネーションの確認			
第9週	プレゼンテーションの準備(3)	プレゼンテーションのリハーサル			
第10週	プレゼンテーションの実施	質疑応答をして理解を深める			
第11週	Unit 4 Preparing for a trip (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第12週	Unit 4 Preparing for a trip (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第13週	Unit 5 Living in a new culture (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第14週	Unit 5 Living in a new culture (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第15週	Unit 6 Cultural stereotypes (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Unit 6 Cultural stereotypes (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第17週	Unit 6 Cultural stereotypes (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第18週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集と原稿作成			
第19週	プレゼンテーションの準備(2)	英語の発音、イントネーションの確認			
第20週	プレゼンテーションの準備(3)	プレゼンテーションのリハーサル			
第21週	プレゼンテーションの実施	質疑応答をして理解を深める			
第22週	Unit 7 You are what you eat (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第23週	Unit 7 You are what you eat (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第24週	Unit 8 Living with water (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第25週	Unit 8 Living with water (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第26週	Unit 9 Problems and Hope (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第27週	Unit 9 Problems and Hope (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第28週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集と原稿作成			
第29週	プレゼンテーションの準備(2)	プレゼンテーションのリハーサル			
第30週	プレゼンテーションの実施	質疑応答をして理解を深める			
後期期末試験	実施する				
教科書	Presenting Different Opinions、Richard McMahon 著、南雲堂				
参考図書					
評価方法	定期試験80%、課題、小テスト20%とし総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス・ライティング I Business Writing I	4	2 * (30)	必修	後期 週 2 時間 B	鈴木 敬了
授業概要	ビジネス英語で必要とされるライティングのミニマムエッセンシャルズを習得する。				
到達目標	(1) 英文メールの構成を理解し、内容を的確に把握できる。 (2) 問い合わせ、会議の設定、注文、苦情などの英文メールが作成できる。 (3) アメリカ英語、イギリス英語の違いに習熟し一貫した英文が作成できる。 (4) ビジネス英語で使われる語彙、表現に習熟し使いこなせる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6).				
履修上の注意	毎回授業の開始時にディクテーションテストを行うので遅れないこと。また全員を指名するので必ず予習しておくこと。 自学自習の確認方法—課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	The Basics (1) The Basics (2) Making Contacts (1) Making Contacts (2) Arrangements (1) Arrangements (2) Meetings (1) Meetings (2) Enquiries (1) Enquiries (2) Orders, Dealing with Problems (1) Enquiries (2) Orders, Dealing with Problems (1) Orders, Dealing with Problems (2) Short Reports 実施する	フォーマルメール、インフォーマルメール 基本的レイアウト 最初のコンタクト 返事、情報を求める 招待と返事 旅行の手配、伝言、転送 会合の設定、議題の設定 変更および確認、謝辞 一般的問い合わせ、返事 特定の問い合わせ、助言 注文、返事、再注文 情報を求める 注文、返事、再注文 日程上の問題、損傷品 数値の提供、動向の描写			
教科書	English for Work: Everyday Business Writing、Badger & Pedley著、ピアソン・エデュケーション(株)ロングマン英語販売部				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、課題および小テスト30%で評価する。				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語 I Second Foreign Language I	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松江 俊一
授業概要	ロシア語の初級レベルをコミュニケーション能力を重視して学ぶ。L・Lを利用してロシア語の発音、リズム、会話を習得する。				
到達目標	①ロシア語の初級文法の知識を得る。 ②ロシア語の基礎的単語、慣用句を習得する。 ③基礎的表現の聞き取りができるようにする。 ④筆記体の読み書きの基礎を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5).				
履修上の注意	初歩の段階ではすべてを暗記するよう心掛ける。現代ロシアおよびロシア語圏諸国について幅広い関心を持ち、日頃より情報収集に努める。ロシア語のニュース、映画を見る。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	導入編	ロシア語の基本構造、日・英・露比較			
第2週	入門編 第1課	文字と発音(1)、Кто это? Где? 名詞の性			
第3週	入門編 第2課	文字と発音(2)、Что это?			
第4週	入門編 第3課	文字と発音(3)、Что это? 発音上の規則			
第5週	第1課	ロシア語の基本文型(1)			
第6週	第2課(1)	ロシア語の基本文型(2)			
第7週	前期中間試験				
第8週	第2課(2)	辞書の使用法			
第9週	第3課(1)	正書法の規則、動詞の不定形と現在人称変化(第1変化)			
第10週	第3課(2)	名詞の格変化(場所を表す前置格)			
第11週	第3課(3)	運動の動詞(1)、動詞の現在人称変化(第2変化)			
第12週	第4課(1)	運動の動詞(2)			
第13週	第4課(2)	名詞の格変化(男性名詞、中性名詞)			
第14週	第4課(3)	名詞の格変化(女性名詞)			
第15週	第4課(4)	形容詞の主格形、бытьの用法(1)			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	第5課(1)	名詞の各変化(目的語を表す対格)、動詞の格支配			
第17週	第5課(2)	前置詞の格支配			
第18週	第5課(3)	名詞の複数形			
第19週	第5課(4)	-овать, -авать 動詞の変化			
第20週	第6課(1)	動詞の未来形			
第21週	第6課(2)	бытьの用法(2)			
第22週	後期中間試験				
第23週	第6課(3)	疑問詞 когдаの用法			
第24週	第7課(1)	動詞の完了体・不完了体(1)			
第25週	第7課(2)	動詞の完了体・不完了体(2)			
第26週	第7課(3)	動詞の完了体・不完了体(3)			
第27週	第7課(4)	動詞の完了体・不完了体(4)			
第28週	第8課(1)	名詞の格変化(否定生格1)			
第29週	第8課(2)	名詞の格変化(否定生格2)			
第30週	第8課(3)	活動体名詞・不活動体名詞の対格			
後期期末試験	実施する				
教科書	『新ロシア語教程』、狩野亨他著、ナウカ / 『博友社ロシア語辞典』、木村彰一他編著、博友社 / 『不実な美女か貞淑な醜女(プス)か』、米原万里著、新潮社 / プリント配布				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、課題及び小テスト30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教官
第2外国語 I Second Foreign Language I	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	辺見 留美子
授業概要	フランス語の初級レベルをコミュニケーション能力を重視して学ぶ。 L・Lを利用してフランス語の発音、リズム、会話を習得する。				
到達目標	①フランス語の初級文法を習得する。 ②フランス語の基礎的な単語を習得する。 ③フランス語の基礎的な語彙イディオムを習得する。 ④フランス語の基礎的な会話を習得する。				
教育目標との対応	福島高専との教育目標との対応:(F-5).				
履修上の注意	L・Lを有効に利用し、フランス語の正しい発音、リズムで会話を声に出し習得するように努める。 仏検5級レベルを目標とする。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	Preparation (1) Preparation (2) Unite 1 – lecon 1 “Rencontres” ” ” 前期中間試験 “Rencontres” Unite 1 – lecon 2 “Sympathies” ” ” ” Unite 1 – lecon 3 “Gouts et preferences” 実施する ” ” ” Unite 1 – lecon 4 “Accords et desaccords” ” 後期中間試験 Unite 1 – lecon 4 ” Unite 1 – lecon 5 ” ” ” ” Bilan. 実施する	アルファベ、挨拶、数字(1~10)、母音・合成母音の発音 物の名前(男性名詞・女性名詞)、子音の発音 lecon 1 “Rencontres”の内容理解 自己紹介、名前の尋ね方 国籍・職業の尋ね方 肯定・否定の答え方、性・数一致の用法 動詞の活用: etre, s'appeler, habiter, connaitre lecon 2 “Sympathies”の内容理解 動詞の活用: regarder, parler, ecouter, lire ... etc 不定冠詞・定冠詞の用法、Je voudrais~の使い方 数字(11~60)、形容詞の性・数一致の用法 曜日・日にち・誕生日の尋ね方・答え方 lecon 3 “Gouts et preferences”の内容理解 趣味・嗜好の尋ね方、動詞の活用: aller, faire 前置詞とそれに伴う冠詞変化 動詞の活用: aimer, preferer, avoir, venir Il y a~の文の用法 疑問・提案・謝罪の表現 lecon 4 “Accords et desaccords”の内容理解 時間の表現、動詞の活用: arriver, partir 動詞の活用: entrer, sortir, commencer, finir, savoir 誘い・依頼の表現、疑問文・命令文・否定文の用法 Unite 1 – lecon 5 “Surprises”の内容理解 人物描写、形容詞の性・数一致 si・nonでの答え方、数字(70~100万) 疑問形容詞を用いた疑問文 3人称複数形の動詞活用、動詞活用の総復習 Unite 1の総復習			
教科書	Le Nouveau Sans Frontieres 1, CLE / デイコ仏和辞典、中條屋進他(編)、白水社 / プリント配布				
参考図書	仏検対策5級問題集、白水社				
評価方法	定期試験70%、課題及び小テスト30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語Ⅱ Second Foreign Language II	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	松江 俊一
授業概要	ロシア語の初級レベルを会話能力を重視して学ぶ。ロシアの歴史・文化について幅広く知識を得る。				
到達目標	①ロシア語の初級文法、単語、語彙を駆使して、基本的な会話パターンを習得する。 ②ロシア語の筆記体の読み書きの基礎を習得する。 ③ロシア人の風俗・習慣、歴史、宗教の基礎的知識を得る。 ④ロシアの音楽、文学、芸術の基礎的知識を得る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5).				
履修上の注意	現代ロシアおよびロシア語圏諸国について幅広い関心を持ち、日頃より情報収集に努める。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	導入編	アルファベットと発音、挨拶ことば	/	ロシアの国名の由来	
第2週	入門編 第1課	身近な物の名前(文房具、食器)	/	ロシア人の名前の由来	
第3週	入門編 第2課	身近な物の名前(果物)、数字1-10	/	風俗習慣(1)	
第4週	入門編 第3課	数字11-20、名前のたずね方	/	風俗習慣(2)	
第5週	第1課	数字30-100、職業のたずね方	/	都市と気候(1)	
第6週	第2課(1)	数字30-1000、国籍のたずね方	/	都市と気候(2)	
第7週	第2課(2)	挨拶のしかた	/	ロシアの歴史(1)	
第8週	第2課(3)	年齢のたずね方	/	ロシアの歴史(2)	
第9週	第3課(1)	ты и выの使い分け、行為をたずねる表現	/	ロシアの歴史(3)	
第10週	第3課(2)	場所を訪ねる表現「どこに？」	/	ロシアの政治(1)	
第11週	第3課(3)	依頼の表現「-していいですか？」	/	ロシアの政治(2)	
第12週	第4課(1)	方向を訪ねる表現「どこへ？」	/	ロシアの経済(1)	
第13週	第4課(2)	時間の表現「いつ行ってきたのですか？」	/	ロシアの経済(2)	
第14週	第4課(3)	述語副詞の表現「-だ」	/	ロシアの宗教(1)	
第15週	第4課(4)	天気、日時、曜日のたずね方	/	ロシアの宗教(2)	
前期期末試験 実施しない					
後期 第16週	第5課(1)	日常行っている行為の表現(1)	/	ロシア文学(1)	
第17週	第5課(2)	日常行っている行為の表現(2)	/	ロシア文学(2)	
第18週	第5課(3)	日常行っている行為の表現(3)	/	ロシア音楽(1)	
第19週	第6課(1)	бытьを使った表現、時を表す副詞句(1)	/	ロシア音楽(2)	
第20週	第6課(2)	бытьを使った表現、時を表す副詞句(2)	/	ロシアバレエ(1)	
第21週	第6課(3)	義務を表す表現「-しなければならない」	/	ロシアバレエ(2)	
第22週	第6課(4)	感嘆表現(1)	/	ロシア映画(1)	
第23週	第7課(1)	感嘆表現(2)	/	ロシア映画(2)	
第24週	第7課(2)	依頼の表現(1)	/	スポーツと余暇(1)	
第25週	第7課(3)	依頼の表現(2)	/	スポーツと余暇(2)	
第26週	第7課(4)	感嘆表現(2) Какを使う表現	/	美術館、博物館(1)	
第27週	第8課(1)	感嘆表現(2) Чтоを使う表現	/	美術館、博物館(2)	
第28週	第8課(2)	誘いの表現「-しましょう」	/	ロシア民謡(1)	
第29週	第8課(3)	所有の表現(1)「-を持っています」	/	ロシア民謡(2)	
第30週	第8課(4)	所有の表現(2)「-があります」	/	ロシア民謡(3)	
後期期末試験 実施しない					
教科書	『新ロシア語教程』、狩野亨他著、ナウカ / 『博友社ロシア語辞典』、木村彰一他編著、博友社 / 『2時間でわかる図解ロシアのしくみ』、小林和男著、中経出版 / プリント配布				
参考図書					
評価方法	リスニング及び口頭試験30%、豆テスト及び課題20%、レポート50%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教官
第2外国語Ⅱ Second Foreign Language Ⅱ	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	辺見 留美子
授業概要	「第2外国語Ⅰ」と連携してフランス語の初級レベルの会話能力を育成する。 ビデオ・インターネットを通してフランス事情を学ぶ。				
到達目標	①基本的なフランス語会話を習得する。 ②フランス文化、歴史の知識を習得する。 ③フランスの地理、産業の知識を習得する。 ④日仏関係等の知識をインターネットを利用して習得する。				
教育目標との対応	福島高専との教育目標との対応:(F-5).				
履修上の注意	基本会話を実演しながら習得する。現代のフランス・フランス語圏諸国について幅広い関心を持ち「自分の興味ある分野」から日仏両国を比較をしながら理解を深める。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Conversation ① “Bonjour, ca va ?”	挨拶・自己紹介の展開会話 / フランスの都市			
第2週	”	”			
第3週	”	”			
第4週	Conversation ② “Est-ce que vous etes ~ ?”	国籍・職業を問う展開会話 / フランスの産業			
第5週	”	”			
第6週	”	”			
第7週	Conversation a deux et les critiques	「出会い」発展会話実演・批評			
第8週	HPリサーチ	フランスの地理、歴史、文化、産業を含んだ「興味ある分野」リサーチ			
第9週	”	”			
第10週	”	”			
第11週	”	”			
第12週	プレゼンテーション	レポート作成(日本語)、批評			
第13週	”	”			
第14週	フランス事情	ビデオ媒体による批評、レポート作成			
第15週	”	”			
前期期末試験	実施しない				
第16週	Conversation ③ “Vous aimez le sport ?”	趣味・嗜好の展開会 / フランスの音楽・生活			
第17週	”	”			
第18週	”	”			
第19週	La conversation a deux et les critiques	まとめ展開会話実演・批評			
第20週	HPグループリサーチ	フランスの都市を選び地理、気候、産業、歴史、文化、日本との関係をリサーチ			
第21週	”	”			
第22週	”	”			
第23週	”	”			
第24週	La reunion de Noel	フランスのクリスマス / 音楽・生活・宗教			
第25週	プレゼンテーション	レポート作成(日本語、フランス語)、批評			
第26週	Conversation ④	近接未来の基本会話 / フランス・海外県事情			
第27週	“ Que'est- ce que vous allez faire ~ ?”	”			
第28週	”	”			
第29週	”	”			
第30週	Conversation まとめ	スピーチ実演			
後期期末試験	実施しない				
教科書	Le Nouveau Sans Frontieres 1, CLE / デイコ仏和辞典、中條屋進他(編)、白水社 / プリント教材				
参考図書	La conversation dans la classe, ALMA				
評価方法	レポート40%、リスニング・会話文小テスト30%、口頭試験30%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報コミュニケーション Computer Science and Manufacturing Systems	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	田代 均
授業概要	生産管理の基礎を情報科学、数理工学、システム工学と関連付けて理解する。				
到達目標	①生産管理、生産現場及び基礎的な生産管理手法を理解する。 ②システム、システム工学の定義及び基礎的なシステム工学の手法を理解する。 ③問題解決のアプローチ方法論を身につける。 ④自ら考えて問題提起、解決する能力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-2). (E-2).				
履修上の注意	数学、情報科学の基礎を理解しておくことが必要。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	概要と授業ガイダンス			
第2週	生産管理の目的	生産、生産現場、CS, Q, C, D, E			
第3週	生産管理の手法	かんばんシステム、製番システム、MRP			
第4週	システムとシステム工学	システム、システム工学の定義			
第5週	グラフと行列によるシステム表現(1)	グラフ理論			
第6週	グラフと行列によるシステム表現(2)	最適化問題			
第7週	前期中間試験				
第8週	創造工学の手法	KJ法、ブレインストーミング			
第9週	統計的手法による問題構造の同定	因子分析法、主成分分析、因子分析			
第10週	構造モデル化による問題構造の同定	ISM法			
第11週	ものづくりの計画	工程のデータベース、リードタイム			
第12週	日程計画	日程計画			
第13週	負荷計画	負荷計画			
第14週	生産手配の情報処理、進捗管理	情報処理、進捗管理			
第15週	生産と販売を結ぶ在庫管理	在庫の効果、管理			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	在庫管理のシステム化	在庫計画			
第17週	在庫管理の工夫	在庫調達			
第18週	統計的手法による数量化	数量化理論			
第19週	関連樹木法	関連樹木法			
第20週	システムモデルとしてのファジー集合(1)	ファジー集合			
第21週	システムモデルとしてのファジー集合(2)	ファジー推論			
第22週	後期中間試験				
第23週	スケジューリング	PERT, CPM			
第24週	生産管理の新たな動向(1)	ISO9000、14000シリーズ			
第25週	生産管理の新たな動向(2)	ERP、アウトソーシング			
第26週	生産管理の新たな動向(3)	TQM、シックスシグマ			
第27週	生産管理の新たな動向(4)	モジュール生産方式			
第28週	生産管理の新たな動向(5)	ロジスティックス、SCM			
第29週	決定分析	主観確率			
第30週	システムの信頼性	システム安全の諸問題			
後期期末試験	実施する				
教科書	図解生産管理、田中一成、日本実業出版社 システム工学入門、寺野寿郎、共立出版				
参考図書	よくわかるこれからの生産管理、菅間正二、同文館出版 よくわかるこれからの品質管理、山田正美、同文館出版 システム工学とは何か、渡辺茂、須賀雅夫、日本放送出版協会				
評価方法	定期試験の成績を80%、レポート等の課題の成績を20%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営学 Introduction to Management	4	2 * (30)	必修	前期 週2時間 B	遠原 智文 渡部 順一
授業概要	経営学を初めて学ぶ学生のための入門(総論)的な授業である。				
到達目標	①経営学説史に関する基礎的な知識を修得する。 ②経営組織理論に関する基礎的な知識を修得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1).				
履修上の注意	自学自習の確認方法:課題プリント等を学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	イントロダクション 企業理論(1) 企業理論(2) 経営理論(1) 経営理論(2) 経営理論(3) 総合演習 経営理論(4) 経営理論(5) 経営組織論(1) 経営組織論(2) 経営組織論(3) 個別の経営理論(1) 個別の経営理論(2) 総合演習 実施する		授業の進め方およびレポートの書き方 株式会社の特徴と仕組み 所有と経営の分離 テイラー フォード ファヨール 確認テスト 人間関係論 行動科学 近代組織論 基本的な組織形態 様々な組織形態 人事管理論 日本的経営論 前期の復習		
教科書	テキスト経営学(増補版), 井原久光, ミネルヴァ書房				
参考図書	ケースに学ぶ経営学, 東北大学経営学グループ, 有斐閣 経営管理, 塩次喜代明, 有斐閣 組織デザイン, 沼上幹, 日本経済新聞社 経営学入門, 梶原清則, 日本経済新聞社				
評価方法	定期試験70%, 確認テストおよび課題30%で評価する。				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人間関係論 Human Relations	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 順一
授業概要	組織心理学を基本として、個人、集団、組織の関係を多方面から学習する。				
到達目標	組織心理学の基本概念を身につけて欲しい。 ①キャリアの概念が分かり、図表を用いて説明ができる。 ②心理学入門で学んだ「動機づけ」の概念を発展させて、モチベーションの現代的理論が説明できる。 ③組織ストレスの態様が分かり、説明ができる。 ④集団の概要が分かり、「集団のありべきダークサイド」について図表を用いて説明できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-3). (D-3).				
履修上の注意	日常の経済活動における個人、集団、組織に関心をもって欲しい。必要に応じて授業のまとめを提出してもらう。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	イントロダクション 心理学の方法 オープン・システムとしての組織 社会性とキャリア ケースを読むその1 これまでの復習 前期中間試験 モチベーションその1 モチベーションその2 組織ストレス ジョブ・デザイン 自立性とプロフェッショナリズム コミュニケーションと意思決定 ケースを読むその2 これまでの復習 実施する		授業の進め方 組織と人間 組織の成果 キャリア モチベーションの古典的理論 モチベーションの近代的理論 組織のなかのストレス ジョブデザインの手法 プロフェッショナリズム 意思決定		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	グループ・ダイナミクスその1 グループ・ダイナミクスその2 対人葛藤 リーダーシップその1 ケースを読むその3 これまでの復習 後期中間試験 リーダーシップその2 組織文化 パワーと管理者その1 パワーと管理者その2 組織の革新その1 組織の革新その2 ケースを読むその4 これまでの復習 実施する		ホーソン研究 小集団の積極的活用 葛藤関係の再評価 影響関係とリーダーシップ 状況適合モデルの展開 組織文化の革新 パワー関係 管理者の役割 変革への抵抗と支持 組織デザインの方法		
教科書	『組織の心理学[新版]』田尾雅夫、有斐閣ブックス。配布資料。				
参考図書	『組織の経営学』リチャード・L.ダフト他、ダイヤモンド社。				
評価方法	定期試験の成績80%、授業のまとめ20%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
知的所有権 Intellectual Property	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	渡部 順一
授業概要	創造性から生まれた新しい知恵を財産として権利化していく仕組みを学ぶ。				
到達目標	知的財産の基本概念をしっかりと身につけて、実社会でも活用できるようにする。 ①創造性について理解を深め、自らアイデアを創出する。 ②特許法上の発明が分かり、説明ができる。 ③特許の要件が分かり、説明ができる。 ④知的財産の基本概念が分かり、図表を用いて説明ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (C-4), (D-3).				
履修上の注意	日常の経済活動なかで知的財産がどのように活用されているか関心をもって欲しい。必要に応じて課題を提出してもらおう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 日常生活のなかの知的財産、知的財産法の発展等 発明と特許法、特許権取得の手続等 アイデアの創出その1 アイデアの創出その2 アイデアの創出その3 特許を作成するその1 特許を作成するその2 特許を作成するその3 特許を作成するその4 特許を作成するその5 特許の発表その1 特許の発表その2 特許の発表その3 これまでのまとめ 実施しない 特許情報の調査その1 特許情報の調査その2 特許情報の調査その3 特許マップその1 特許マップその2 特許マップその3 商標その1 商標その2 意匠 技術移転その1 技術移転その2 技術移転その3 不正競争防止法 著作権その1 著作権その2 実施する	授業の進め方について 知的財産権の意義と種類、特許法の意義と種類 発明の意義、特許を受ける権利等 自らアイデアを生み出す 自らアイデアを生み出す 自らアイデアを生み出す アイデアを試行する アイデアを試行する アイデアを試行する アイデアを試行する アイデアを試行する 自らのアイデアを発表する 自らのアイデアを発表する 自らのアイデアを発表する 発表の手直しを行う 特許情報、特許調査とは 特許公報とは 特許庁、特許電子図書館とは 特許マップとは 特許マップを作成する 特許マップを作成する 商標とは 企業経営における商標の効果・価値 意匠とは 技術移転と産業発展 研究開発と特許 技術移転の実務 不正競争防止法とは 著作権とは 著作権とビジネス			
教科書	配布資料(産業財産権標準テキスト『特許編』『商標編』『意匠編』『流通編』など)。				
参考図書	『産業財産権条文集』発明協会編、発明協会。『工業所有権法逐条解説[第16版]』特許庁編、発明協会。				
評価方法	定期試験30%、課題70%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
プレゼンテーション Presentation	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	田代 均 布施雅彦
授業概要	問題解決学習を通して情報収集・整理・分析・発表・評価を行い、人に伝える難しさを理解し、工夫して発表できるようにする。				
到達目標	①プレゼンテーションの基本的な知識を身につける。 ②情報を効果的に表現して発表用スライドを製作できる。 ③時間内に効果的に相手に伝えることを考えることができる。 ④自分の発表をフィードバックして次回の発表に役立てることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-2). (D-3).				
履修上の注意	興味のある内容をより深く理解し、情報を取捨選択し、客観的に分析し、論理的に説明できるようになること。発表の上達には観察力と継続力と表現力が問われてくるので、準備、練習、復習の日々のコツコツした努力が大切である。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	プレゼンテーションについて	意義と問題解決学習について			
第2週	過去の発表の閲覧	VODの活用と過去の発表			
第3週	発表機器	発表機器の歴史と仕組み			
第4週	発表内容と情報収集1	情報の質(一次情報と二次情報)と情報収集の方法			
第5週	発表内容と情報収集2	実際の調査の方法と種類			
第6週	スライド制作の方法1	タイトル・文字・図			
第7週	スライド制作の方法2	グラフ・グラフィック・マルチメディア			
第8週	発表の方法	声・目線・指示棒・間合いなど様々な方法			
第9週	スライドの制作1	パワーポイントの使い方(テンプレートなど)			
第10週	スライドの制作2	パワーポイントの使い方(アニメーションなど)			
第11週	相互・自己評価	相互評価の意義と目的とフィードバックについて			
第12週	第1回の発表1	コンピュータを利用した発表			
第13週	第1回の発表2	コンピュータを利用した発表			
第14週	第1回の発表3	コンピュータを利用した発表			
第15週	第1回の発表の評価	他者評価・自己評価			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	レポート作成	フィードバックレポートの作成			
第17週	ネットプレゼンテーション1	ネットプレゼンテーションについて			
第18週	ネットプレゼンテーション2	ネットプレゼンテーションの作成			
第19週	発表の評価	フィードバックレポートによる反省と今後の発表について			
第20週	発表の準備1	情報収集			
第21週	発表の準備2	情報分析			
第22週	発表の準備3	スライドの作成			
第23週	発表の準備4	スライドの作成			
第24週	発表の準備5	練習			
第25週	第2回の発表1	コンピュータを利用した発表			
第26週	第2回の発表2	コンピュータを利用した発表			
第27週	第2回の発表3	コンピュータを利用した発表			
第28週	第2回の発表4	コンピュータを利用した発表			
第29週	第2回の発表の評価	他社評価・自己評価			
第30週	レポート作成	フィードバックレポートの作成			
後期期末試験	実施しない				
教科書	プレゼンテーション+パワーポイント2003、実教出版 パーフェクト演習PowerPoint、実教出版				
参考図書					
評価方法	発表50%、小テスト10%、課題40%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
会計学 Accounting	4	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	渡部 美紀子
授業概要	ビジネスの言語といわれる会計を学ぶ。講義では、日商簿記2級以上の商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算を学習する。株式会社の経理一般の概要を把握することを目的とする。				
到達目標	①株式会社の基本的な会計処理が理解できる。 ②基本的な工業簿記・原価計算が理解できる。 ③株式会社の財務諸表の作成ができる。 ④日商簿記検定2級の取得を目指し、検定問題を解くことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1). (D-1).				
履修上の注意	講義時間以外の自己学習、特に復習と問題演習が必要不可欠である。簿記検定の過去問題にも積極的に取り組むこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	授業の進め方、各種検定試験について			
第2週	初級簿記の復習				
第3週	個人企業と株式会社	個人企業と株式会社の会計処理の違い			
第4週	商品売買の処理	商品売買・特殊商品売買			
第5週	流動資産	現金・預金、手形、有価証券			
第6週	固定資産(1)	固定資産の種類と会計処理			
第7週	固定資産(2)	減価償却、期中売却・買換え			
第8週	繰延資産、引当金、社債	繰延資産、引当金、社債の処理			
第9週	引当金、社債	貸倒引当金とその他の法定引当金社債、社債の処理と買入償還			
第10週	株式の発行	株式会社の資本構成、合併買収等			
第11週	決算(1)	税金、決算整理、精算表			
第12週	決算(2)	財務諸表、英米式と大陸式			
第13週	本支店会計	本支店会計、合併財務諸表の作成			
第14週	伝票会計、帳簿組織	伝票会計、特殊仕訳帳			
第15週	日商2級試験演習	商業簿記対策問題			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	原価計算のアウトライン	原価の意義と分類			
第17週	工業簿記の構造	月間取引、勘定記入と財務諸表			
第18週	材料費会計	材料費の分類、予定価格			
第19週	労務費会計	労務費の分類、消費賃金、予定賃率			
第20週	経費会計	経費の分類と処理			
第21週	個別原価計算(1)	製造間接費の実際配賦と予定配賦			
第22週	個別原価計算(2)	部門別計算と予定配賦、仕損・作業屑			
第23週	総合原価計算(1)	等級別計算、組別計算			
第24週	総合原価計算(2)	工程別計算、仕損・減損、追加材料、副産物			
第25週	営業費会計と本社工場会計	営業費会計、本社工場会計の処理			
第26週	標準原価計算(1)	標準原価計算のながれ			
第27週	標準原価計算(2)	標準原価計算の差異分析			
第28週	直接原価計算(1)	CVP関係の分析			
第29週	直接原価計算(2)	原価予測の方法			
第30週	日商2級試験演習	工業簿記対策問題			
後期期末試験	実施する				
教科書	『日商簿記2級とおるテキスト商業簿記』『日商簿記2級とおるテキスト商業簿記』『日商簿記2級とおるテキスト工業簿記』『日商簿記2級とおるテキスト工業簿記』TAC出版 ; 『日商簿記2級 出題パターンと解き方 過去問題集 2006年秋対策用』 TAC出版				
参考図書					
評価方法	定期試験80%, 課題20%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
プログラミング言語 Programming Languages	4	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	島村 浩
授業概要	プログラミング言語を用いて、簡単なプログラムを作成・実行し、プログラミングの基本を習得する。				
到達目標	基本制御構造を理解し、流れ図等で記述できること。 流れ図等を元にして、プログラムが作成できること。 配列について理解し、簡単なプログラムが作成できること。 オブジェクト指向を理解し、説明が出来ること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (B-4). (D-2).				
履修上の注意	自分の頭で考え、実行してみること。論理設計を元実際にプログラムを作成することによって確認する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	プログラミングの基礎(1)	ソフトウェアの種類、OS、言語処理系			
第2週	プログラミングの基礎(2)	基本制御構造、データ構造			
第3週	アルゴリズムの基礎(1)	アルゴリズムの記述方法、流れ図			
第4週	アルゴリズムの基礎(2)	基本制御構造			
第5週	アルゴリズムの基礎(3)	順次(逐次)処理			
第6週	アルゴリズムの基礎(4)	分岐(選択)処理			
第7週	前期中間試験				
第8週	アルゴリズムの基礎(5)	分岐(選択)処理			
第9週	アルゴリズムの基礎(6)	反復(繰り返し)処理			
第10週	アルゴリズムの基礎(7)	反復(繰り返し)処理			
第11週	アルゴリズムの基礎(8)	反復(繰り返し)処理			
第12週	アルゴリズムの基礎(9)	反復(繰り返し)処理			
第13週	データ構造の基礎(1)	1次元配列			
第14週	データ構造の基礎(2)	2次元配列			
第15週	データ構造の基礎(3)	配列の応用			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	文字列の処理(1)	文字列の定義			
第17週	文字列の処理(2)	文字列関数、文字列ステートメント			
第18週	グラフィックス(1)	図形の描画、座標系			
第19週	グラフィックス(2)	描画メソッド			
第20週	グラフィックス(3)	画像の取り扱い			
第21週	グラフィックス(4)	グラフィックスの応用			
第22週	後期中間試験				
第23週	課題演習	課題プログラムの作成			
第24週	ファイルの処理(1)	ファイルの種類、ファイル入出力			
第25週	ファイルの処理(2)	データファイルの利用方法			
第26週	総合演習(1)	演習問題			
第27週	総合演習(2)	演習問題			
第28週	総合演習(3)	演習問題			
第29週	その他の言語	C、C++、Java、各種スクリプト言語			
第30週	最新技術動向	オブジェクト指向言語の動向等			
後期末試験	実施する				
教科書	実習 Visual Basic.NETーだれでもわかるプログラミングー、林直嗣、室井勝子、鈴木三枝子、サイエンス社				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%、課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
時事英語 Media English	4	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	鈴木 敬了
授業概要	アメリカ3大ネットワーク、ABCニュースを通して時事英語の語彙、文法、リスニングに習熟しコミュニケーション能力を高める。				
到達目標	(1)英語ニュースの聞き取りを通して生きた英語表現を身につける。 (2)ニュース英語の特徴である短い語彙に慣れる。 (3)テレビニュースの構成に習熟する。 (4)ニュースで得た情報をもとにディスカッションするコツを学ぶ。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	毎回授業の開始時にディクテーションテストを行うので遅れないこと。また全員を指名するので必ず予習してくること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	1. Inside North Korea (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第2週	1. The Battle for Ohio (2)	ニュースに関するディスカッション			
第3週	2. America's Pumpered Pets (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第4週	2. America's Pumpered Pets (2)	ニュースに関するディスカッション			
第5週	3. Pilgrimage to Rome (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第6週	3. Pilgrimage to Rome (2)	ニュースに関するディスカッション			
第7週	4. Fighting Junk Food in Schools (1)	グループディスカッション			
第8週	4. Fighting Junk Food in Schools (2)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第9週	5. Terri Schiavo Case (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第10週	5. Terri Schiavo Case (2)	ニュースに関するディスカッション			
第11週	6. Shark Fighters (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第12週	6. Shark Fighters (2)	ニュースに関するディスカッション			
第13週	7. Small Steps (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第14週	7. Small Steps (2)	ニュースに関するディスカッション			
第15週	8. Laughter: The Best Medicine (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	8. Laughter: The Best Medicine (2)	ニュースに関するディスカッション			
第17週	9. Measuring Success (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第18週	9. Measuring Success (2)	ニュースに関するディスカッション			
第19週	10. Girl Scout Cookies (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第20週	10. Girl Scout Cookies (2)	ニュースに関するディスカッション			
第21週	11. Selling Identities (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第22週	11. Selling Identities (2)	ニュースに関するディスカッション			
第23週	12. Pond Hockey (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第24週	12. Pond Hockey (2)	ニュースに関するディスカッション			
第25週	13. DNA Tests (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第26週	13. DNA Tests (2)	ニュースに関するディスカッション			
第27週	14. Woman and Science (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第28週	14. Woman and Science (2)	ニュースに関するディスカッション			
第29週	15. Border Patrol (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第30週	15. Border Patrol (2)	ニュースに関するディスカッション			
後期期末試験	実施する				
教科書	ABC World News 8、山根 繁/Kathleen Yamane、金星堂				
参考図書					
評価方法	定期試験90%、小テスト10%とし総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
確率統計 Statistics	4	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	確率概念の理解の下にデータ整理、回帰分析、相関分析について学習する。				
到達目標	(1)各種の分布を理解し、分布表が使いこなせる。 (2)区間推定の原理を理解し、平均、分散等の区間推定ができる。 (3)検定の原理を理解し、平均、分散、適合度及び独立の検定ができる。 (4)相関分析、回帰分析及び重回帰分析の原理を理解し、回帰直線、決定係数及び分散分析表が計算できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-2). (D-3). (D-4).				
履修上の注意	常に情報統計の学習内容を復習し、問題を数多く解くこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	確率論(1)	情報統計の復習	全確率の定理、ベイズの定理 確率の応用 情報統計の復習(二項分布、正規分布) t分布 カイ2乗分布 F分布 情報統計の復習(母平均の区間推定・検定) 母分散の区間推定 母比率の区間推定 母分散の検定 適合度の検定 独立性の検定 前期のまとめ		
第2週	確率論(2)				
第3週	確率論(3)				
第4週	確率分布(1)				
第5週	確率分布(2)				
第6週	確率分布(3)				
第7週	前期中間試験				
第8週	確率分布(4)				
第9週	推定・検定(1)				
第10週	推定・検定(2)				
第11週	推定・検定(3)				
第12週	推定・検定(4)				
第13週	推定・検定(5)				
第14週	推定・検定(6)				
第15週	総合演習				
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	推定・検定(7)	適合度の検定	独立性の検定 検定問題の演習(1) 検定問題の演習(2) 回帰直線、相関係数 無相関の検定 null 相関分析の総合演習(1) 相関分析の総合演習(2) 決定係数と分散分析表 回帰分析の総合演習 重回帰式 重回帰係数 分散分析表 1年間のまとめ		
第17週	推定・検定(8)				
第18週	推定・検定(9)				
第19週	推定・検定(10)				
第20週	相関分析(1)				
第21週	相関分析(2)				
第22週	後期中間試験				
第23週	相関分析(3)				
第24週	相関分析(4)				
第25週	回帰分析(1)				
第26週	回帰分析(2)				
第27週	重回帰分析(1)				
第28週	重回帰分析(2)				
第29週	重回帰分析(3)				
第30週	総合演習				
後期期末試験	実施する				
教科書	プリント				
参考図書	すぐわかる統計解析、石村貞夫著、東京図書 すぐわかる多変量解析、石村貞夫著、東京図書				
評価方法	定期試験80%、小テスト20%で評価します。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス英語 I Business English I	4	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	渡部 美紀子 田代 均
授業概要	(田代)日本紹介の英文ガイドブックと鉄鋼材料の英文教科書を読解して、ビジネス英語の基礎的な表現を学習する。(渡部)世界の常識、習慣等を英語で通読し、日本の常識、習慣との違いを認識する。				
到達目標	(田代)①基礎的なビジネス英語の読解力を身につける。 ②日本紹介、鉄鋼材料の基礎的な英語表現を理解する。 (渡部)①日本とは異なる文化を有する国が数多くあることを認識し、英語で理解することができる。 ②国際的にビジネスを遂行する際のコミュニケーションの回り方を自分なりの視点で考えることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	(田代)全員を指名するので予習してくること。(渡部)必ず予習の上、内容を踏まえた自分の考えをまとめてくること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	(田代)イントロダクション	概要と授業ガイダンス			
第2週	日本紹介(1)経済の成長	表現、専門用語、内容の理解			
第3週	日本紹介(2)年功序列	表現、専門用語、内容の理解			
第4週	日本紹介(3)企業別組合	表現、専門用語、内容の理解			
第5週	鉄鋼材料(1)鋼とは	表現、専門用語、内容の理解			
第6週	鉄鋼材料(2)鋼の状態変化-その1	表現、専門用語、内容の理解			
第7週	鉄鋼材料(3)鋼の状態変化-その2	表現、専門用語、内容の理解			
第8週	日本紹介(4)小集団活動(品質管理)	表現、専門用語、内容の理解			
第9週	日本紹介(5)長寿国	表現、専門用語、内容の理解			
第10週	日本紹介(6)教育	表現、専門用語、内容の理解			
第11週	日本紹介(7)技術力	表現、専門用語、内容の理解			
第12週	鉄鋼材料(4)鋼中のC、N-その1	表現、専門用語、内容の理解			
第13週	鉄鋼材料(5)鋼中のC、N-その2	表現、専門用語、内容の理解			
第14週	鉄鋼材料(6)鋼中のC、N-その3	表現、専門用語、内容の理解			
第15週	鉄鋼材料(7)鋼の実用例	表現、専門用語、内容の理解			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	(渡部)イントロダクション	授業の進め方			
第17週	世界の人々を知るための基礎知識(1)	英語は本当に世界の公用語?他			
第18週	世界の人々を知るための基礎知識(2)	このジェスチャーにご用心他			
第19週	味だけでは語れない世界の食習慣(1)	米は日本の国民食か?他			
第20週	味だけでは語れない世界の食習慣(2)	ワリカンはケチの証?他			
第21週	トイレにびっくり!世界の住まい	雨が降ると崩れる家他			
第22週	どこの国でも「服装が人を表す」	タンクトップ、短パンはご法度			
第23週	制限だらけの世界の結婚と家族(1)	清く正しい男女交際他			
第24週	制限だらけの世界の結婚と家族(2)	結婚したら名前は変わる?他			
第25週	1年が365日でない世界のカレンダー	1週間はいつが休み?			
第26週	うっかりすると罰金、世界の街の習慣	改札のない駅とは?他			
第27週	世界のビジネスマンたち	金曜の午後は予定を入れないこと他			
第28週	和製も活躍、世界のスポーツ・娯楽	相撲に負けない世界の国技他			
第29週	各国公共制度	税金を納めなくてもよい国他			
第30週	日本よりキビシイ世界教育事情	11年生っていったい何歳?他			
後期期末試験	実施する				
教科書	(田代)配布資料。(渡部)『英語で比べる「世界の常識」』足立恵子、講談社バイリンガルブックス。				
参考図書	(田代)Talking about Japan、日鉄ヒューマンデベロプメント、アルク Steels、R.W.K.Honeycombe、Edward Arnold				
評価方法	(田代)定期試験の成績を80%、レポート等の課題の成績を20%で評価する。(渡部)定期試験80%、課題20%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
国際関係論 International Relations	4	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	遠原 智文 渡部 順一
授業概要	複雑な国際関係における, 主要な主体である国際企業の経営について学ぶ。				
到達目標	①国際企業の歴史に関する基礎的な知識を習得する。 ②企業の国際化理論に関する基礎的な知識を習得する。 ③国際企業の戦略に関する基礎的な知識を習得する。 ④国際企業の組織に関する基礎的な知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (C-1).				
履修上の注意	夏休みに, レポートを作成してもらい, その内容を発表してもらう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	授業の進め方およびレポートの書き方			
第2週	国際経営とは	国内経営と国際経営の違い			
第3週	多国籍企業とは	多国籍企業の定義			
第4週	日本企業の国際経営	日本の多国籍企業の特徴			
第5週	国際経営の歴史(1)	イギリス多国籍企業の歴史			
第6週	国際経営の歴史(2)	アメリカ多国籍企業の歴史			
第7週	総合演習	これまでの復習			
第8週	総合演習	確認テスト			
第9週	国際経営の歴史(3)	ドイツ多国籍企業の歴史			
第10週	国際経営の歴史(4)	日本多国籍企業の歴史			
第11週	国際経営の理論(1)	ハイマー理論			
第12週	国際経営の理論(2)	プロダクト・サイクル理論			
第13週	国際経営の理論(3)	内部化理論			
第14週	国際経営の理論(4)	最近の理論動向			
第15週	総合演習	前期の復習			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	課題発表	課題発表			
第17週	課題発表	課題発表			
第18週	課題発表	課題発表			
第19週	国際マーケティング(1)	輸出マーケティング			
第20週	国際マーケティング(2)	輸出戦略の変化, 製品輸入, 国際調達			
第21週	海外生産(1)	海外生産の発展			
第22週	海外生産(2)	日本的生産システムの海外移転			
第23週	海外研究開発(1)	技術移転, 基本的フレームワーク			
第24週	海外研究開発(2)	海外研究開発の発展段階・立地・現況			
第25週	国際経営組織(1)	組織構造			
第26週	国際経営組織(2)	所有政策			
第27週	国際戦略提携(1)	国際戦略提携の理論			
第28週	国際戦略提携(2)	国際戦略提携の実際			
第29週	異文化経営	異文化経営論			
第30週	総合演習	後期の復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	国際経営(新版), 吉原英樹, 有斐閣				
参考図書	国際経営論への招待, 吉原英樹, 有斐閣 理論とケースで学ぶ国際ビジネス, 江夏健一・桑名義晴, 同文館				
評価方法	定期試験70%, 確認テストおよび課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報特論 I Information Seminar I	4	1 (30)	選択	前期 週 2 時間 B	布施 雅彦
授業概要	コンピュータを活用して、基本的なアルゴリズムを学習する。				
到達目標	1. 考え方に着目し、流れ図を作成することができる。 2. 資格試験等に必要アルゴリズム入門内容を理解できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (B-4).				
履修上の注意	人間の考え方とコンピュータの考え方の違いを理解して、取り組むこと。 アルゴリズムは、プログラムの流れを何度も紙に書いてシミュレーションしてみること。 C言語について復習しておくこと				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第 1週 第 2週 第 3週 第 4週 第 5週 第 6週 第 7週 第 8週 第 9週 第 10週 第 11週 第 12週 第 13週 第 14週 第 15週 前期末試験	アルゴリズムとは アルゴリズム1 アルゴリズム2 基礎1 基礎2 基礎3 中間テスト 基礎4 整列 整列 整列 整列 探索 探索 探索 実施する		アルゴリズムの基本 身近な生活でのアルゴリズム アルゴリズムの基本記述 集計・最大値・最小値 集計・最大値・最小値 合計・平均 誤差と誤差の対策 整列(並び替え) 交換法・選択法・挿入法 交換法・選択法・挿入法 交換法・選択法・挿入法 探索(検索) 直接・線形・二分 直接・線形・二分		
教科書	アルゴリズム 伏見正則 鎌田宗憲 実教出版				
参考図書					
評価方法	テスト70% 課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
実務研修 Outside Practice	4	1	選択	夏期休業中 C	渡部 順一
授業概要	企業の実情にふれその認識を深めるとともに、社会人としての心構えを体得する。				
到達目標	各業種の領域を知り、将来の方向性を決める。				
教育目標 との対応	福島高専の教育目標との対応:(B・2). (B・4).				
履修上の注意	社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先希望調査 ・ 実習先との調整 ・ 実習先の決定 ・ 実習(夏期休業中・2週間程度) ・ 報告書提出 ・ 実習報告会(パワーポイントによるプレゼンテーション) 				
教科書					
参考図書					
評価方法	評価は実習先からの実習記録票、実習報告書および実習報告会における発表等の内容を総合的に評価して合否を判定する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
卒業研究 Graduation Research	5	8 (240)	必修	通年 週8時間 C	コミュニケーション情報学科 全教員
授業概要	4年間の学習の成果を基に、担当教官の指導により学生の興味と好ましい資質の伸展をはかり、探求的な学習を通じて問題解決能力を育成する。				
到達目標	受動的な学習態度ではなく、問題を自ら探して見つけるような積極的かつ自発的な取り組みができる。				
教育目標 との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (B-4). JABEE 基準(1)との対応:(c). (d)-(1). (d)-(2)-a)				
履修上の注意	各テーマについて指導教官より指示がある。				
授業計画 <p>学生は各研究室に配属され、下記のようなテーマにしたがって授業を進める。最後にテーマごとの報告書を提出する。</p> <p>また、卒業研究発表会において研究成果を発表する。平成17年度のテーマは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モバイルeラーニングの為のマルチメディアコンテンツ開発における基礎研究 ・「M&Aのターニングポイントーライブドア VS ニッポン放送の事例検証ー」 ・福島県における中小企業の実態～福島県電子機械工業会における一考察～ ・高専のマネジメント～現状と課題(北海道、北陸、甲信越、関西、九州、沖縄)～ ・高専のマネジメント～現状と課題(関東、東海、中国、四国、公私立)～ ・歴史的コーパスに見られる規範文法家の影響: 分離不定詞を中心に ・韓国人観光客に対するサービスに関する一考察～いわき市の事例～ ・化粧品産業におけるブランドマネジメントに関する一考察 ・「会社分割における経営分析ー生存分岐点分析の活用ー」 ・コーパスに基づくイデオロムの成立過程に関する研究 ・ラテンアメリカ各国の日本向け広報活動から見る日本観 ・愛玩動物飼養拒否行動とそれに関する問題の分析と対策 ・映画『もののけ姫』にみられる古来からの日本人の心 ・キャリア・デザイン～自分の進むべき道を決める～ ・階層交渉モデルによるライブドア買収問題の分析 ・学生のキャリア・デザインに関する現状と展望 ・NPOを利用したバスシステムについての一考察 ・いわき市における病院の立地についての一考察 ・「金融機関における減損会計に関する一考察」 ・進化ゲーム理論による共有地の悲劇の分析 ・進化ゲーム理論による関ヶ原合戦の分析 ・『星の王子さま』の翻訳についての研究 ・文化的リテラシー: マザーグースの世界 ・日本人留学生のカルチャーショック研究 ・～音楽活性化事業～CD制作とデザイン ・ルーン文字を題材にしたカードデザイン ・進化ゲーム理論による学級崩壊の分析 ・SPA企業の経営戦略に関する一考察 ・化粧水の顧客満足度に関する一考察 ・「清涼飲料水メーカーの財務分析」 ・サブカルチャーの中のカタカナ語 ・地域経済活性化策に関する一考察 ・万葉集の英訳比較に関する考察 ・地域活性化を意識したDBMS ・紙を使用したおもちゃの制作 ・農業の現状と存続に関する一考察 ・商業集積効果に関する一考察 ・貿易政策のゲーム理論的考察 ・色で学ぶ食育教材の制作 ・現代の童謡の歌詞分析 ・布おもちゃの制作 					
教科書					
参考図書					
評価方法	卒業研究報告を80%、プレゼンテーションを20%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
パブリック・スピーキングⅡ Public Speaking Ⅱ	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	鈴木 敬了
授業概要	さまざまなトピックに関するリスニングとリーディングを通してさまざまな表現、語彙等に習熟し各自のプレゼンテーションに役立てる。				
到達目標	(1)ディクテーションを通して英語の音声の聞き取り、および単語の綴りに習熟する。 (2)プレゼンテーションのテキストのパスセージに出てくる重要表現に習熟する。 (3)プレゼンテーションの構成およびサインポスト(つなぎ語)を使うことができる。 (4)プレゼンテーションの準備を通して英語の正しい発音、リズム等をマスターする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	毎回授業の開始時にディクテーションテストを行うので遅れないこと。また全員を指名するので必ず予習しておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Unit 10 Women's Rights (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第2週	Unit 10 Women's Rights (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第3週	Unit11 Buy This, Buy That! (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第4週	Unit11 Buy This, Buy That! (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第5週	Unit 12 On the Job (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第6週	Unit 12 On the Job (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第7週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集と原稿作成			
第8週	プレゼンテーションの準備(2)	配布資料の作成と原稿のチェック			
第9週	プレゼンテーションの準備(3)	プレゼンテーションのリパーサル			
第10週	プレゼンテーションの実施	質疑応答を通して理解を深める			
第11週	Unit 13 No Strings Attached (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第12週	Unit 13 No Strings Attaced (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第13週	14 Child Abuse (1)	トピックに関する資料収集と原稿作成			
第14週	Unit 14 Child Abuse (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第15週	Unit 15 Caring about Others (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Unit 15 Caring about Others (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第17週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集と原稿作成			
第18週	プレゼンテーションの準備(2)	配布資料の作成と原稿のチェック			
第19週	プレゼンテーションの準備(3)	プレゼンテーションのリパーサル			
第20週	プレゼンテーションの実施	質疑応答を通して理解を深める			
第21週	Unit 16 Read All about it! (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第22週	Unit 16 Read All about it! (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第23週	Unit 17 Is TV Good for You? (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第24週	Unit 17 Is TV Good for You? (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第25週	Unit 18 Taking Access for Granted (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第26週	Unit 18 Taking Access for Granted (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第27週	プレゼンテーションの準備	トピックに関する資料収集と原稿作成			
第28週	プレゼンテーションの準備(2)	配布資料の作成と原稿のチェック			
第29週	プレゼンテーションの実施	質問、コメントをし理解を深める			
第30週	一年間のまとめ	重要表現の確認			
後期期末試験	実施する				
教科書	昨年パブリック・プレゼンテーションIで使用した教科書 (Presenting Different Opinions、 Richard McMahon 著 南雲堂)を継続して使用する。				
参考図書					
評価方法	定期試験80%、課題や小テスト20%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス・ライティングⅡ Business Writing Ⅱ	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	鈴木 敬了
授業概要	ビジネス・プレゼンテーションに役立つ英語表現をライティングを通じて身に着ける。				
到達目標	(1)ビジネス・プレゼンテーションの自己紹介に関する表現力を身につける。 (2)プレゼンテーションのサインポストに習熟し、論理的発表ができる。 (3)統計の数値やグラフの変化を英語で表現できる。 (4)ライティングを通じてプレゼンテーション能力を高める。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	毎回、授業開始時にディクテーションテストを行うので遅刻しないこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	1. Welcoming a speaker	発表者に対する歓迎のことば			
第2週	2. Saying who you are	自己紹介			
第3週	3. Starting with an interesting fact	興味深い事実で始める			
第4週	4. Giving background	背景を説明する			
第5週	5. Outlining a presentation	プレゼンテーションの概要を伝える			
第6週	6. Handouts at the end	ハンドアウトを後で配る			
第7週	7. Using questions to organise	質問形式をとり入れたプレゼンテーション			
第8週	8. The general to the specific	全体の概況から詳細への移行			
第9週	9. Changing topic	話題の変更の仕方			
第10週	10. Reporting bad news	悪いニュースを伝える			
第11週	11. Explaining the meaning of abbreviations	省略記号の説明			
第12週	12. Concluding and moving on	結論と進行			
第13週	13. Percentages	パーセントの数値表現			
第14週	14. Large and small numbers	数値表現			
第15週	15. An increase	増加の数値表現			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	16. Staying the same	同じ数値表現			
第17週	17. Using slides	スライドに関する表現			
第18週	18. Looking at detail	詳細を説明する仕方			
第19週	19. Explaining a graph	グラフの説明の仕方			
第20週	20. Explaining a diagram	図の説明表現			
第21週	21. Losing your place in your notes	メモのどこまで進んだか迷ったときの表現			
第22週	22. A deleted or wrong slide	誤ったスライドの対処法			
第23週	23. Interruptions to your talk	プレゼンテーションが中断されたら			
第24週	24. A question that is not on the topic	無関係な質問を受けたら			
第25週	25. Making a final point	結論を述べる			
第26週	26. Summarising main points	要点をまとめる			
第27週	27. Making a recommendation	推薦する			
第28週	28. Telling people how to contact you	連絡方法を述べる			
第29週	29. Thanking people for listening	清聴に感謝する			
第30週	30. Ending on a positive note	肯定的な調子で終える			
後期末試験	実施する				
教科書	English for Work: Business Presentations, Anne Freitag-Lawrence著、ピアソン・エデュケーション(株)、ロングマン英語販売部				
参考図書					
評価方法	定期試験90%、小テスト10%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネスと法律 Business and Law	5	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	渡部 美紀子
授業概要	本講義では、日商簿記検定2級レベル以上の商業簿記・会計学ならびに工業簿記・原価計算、さらに、企業会計原則の一般原則や商法、証券取引法等の会計法規についても学習する。				
到達目標	①株式会社の損益計算書・貸借対照表の作成ができる。 ②製造原価報告書の作成ができる。 ③重要な会計法規を理解できる。 ④未取得者は日商簿記検定2級の取得を目指し、検定問題を解くことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1). (D-1).				
履修上の注意	多くの問題を解くことにより学習効果が高まる。積極的な自己学習が必要であることを付記しておく。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	授業の進め方、各種検定試験について			
第2週	初級簿記の復習				
第3週	原価計算のアウトライン	原価の意義と分類、原価計算基準			
第4週	工業簿記の構造	月間取引、勘定記入と財務諸表			
第5週	材料費会計	材料費の分類、予定価格			
第6週	労務費会計	労務費の分類、消費賃金、予定賃率			
第7週	経費会計	経費の分類と処理			
第8週	個別原価計算(1)	製造間接費の実際配賦と予定配賦			
第9週	個別原価計算(2)	部門別の計算と予定配賦、仕損・作業屑			
第10週	総合原価計算(1)	等級別計算、組別計算			
第11週	総合原価計算(2)	工程別計算、仕損・減損、追加材料			
第12週	営業費会計と本社工場会計	営業費会計・本社工場会計の処理			
第13週	標準原価計算	標準原価計算の流れと差異分析			
第14週	直接原価計算	CVP分析、原価予測の方法			
第15週	日商2級試験演習	工業簿記対策問題			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	個人企業と株式会社	企業会計原則・商法・有価証券取引法			
第17週	商品売上の処理	商品売買・特殊商品売買			
第18週	流動資産	現金・預金、手形法、有価証券			
第19週	固定資産(1)	固定資産の種類と会計処理			
第20週	固定資産(2)	減価償却、期中売却・買換え			
第21週	引当金、社債	各種引当金、社債の処理			
第22週	株式の発行	株式会社の資本構成、合併・買収			
第23週	利益処分	利益処分、損失の処理・欠損填補			
第24週	決算(1)	税金、決算整理、精算表			
第25週	決算(2)	財務諸表、英米式と大陸式			
第26週	本支店会計	本支店会計、合併財務諸表の作成			
第27週	伝票会計	伝票会計、仕訳日計表			
第28週	帳簿組織	特殊仕訳帳、二重転記の除去			
第29週	キャッシュフロー計算書	キャッシュフロー計算書の作成方法			
第30週	日商2級試験演習	商業簿記対策問題			
後期期末試験	実施する				
教科書	『日商簿記2級とおるテキスト工業簿記』『日商簿記2級とおるセミ工業簿記』『日商簿記2級とおるテキスト工業簿記』『日商簿記2級とおるセミ工業簿記』TAC出版；『日商簿記2級 出題パターンと解き方 過去問題集 2006年秋対策用』TAC出版				
参考図書					
評価方法	定期試験80%，課題20%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス英語Ⅱ Business English Ⅱ	5	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	田代 均
授業概要	日本紹介とコミュニケーション向上技術に関する英文書籍の読解により、実践的なビジネス英語を学習する。				
到達目標	①実践的なビジネス英語に教多く接し、読解力、応用力を身につける。 ②体系的な日本紹介の英語表現、専門用語を理解する。 ③ビジネススクール流のコミュニケーション力向上技術を英語で理解する。 ④英語ビジネス文書の意識、分かり易い日本語への翻訳の重要性を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	全員を指名するので予習してくること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	概要と授業ガイダンス			
第2週	日本紹介(1)地理/位置、気候	表現、専門用語、内容の理解			
第3週	日本紹介(2)地理/地形、人口	表現、専門用語、内容の理解			
第4週	日本紹介(3)地理/山、川、湖	表現、専門用語、内容の理解			
第5週	日本紹介(4)歴史/祖先、起源	表現、専門用語、内容の理解			
第6週	コミュニケーション技術(1)概要	表現、専門用語、内容の理解			
第7週	コミュニケーション技術(2)コミュニケーションの本質	表現、専門用語、内容の理解			
第8週	コミュニケーション技術(3)言語ーその1	表現、専門用語、内容の理解			
第9週	コミュニケーション技術(4)言語ーその2	表現、専門用語、内容の理解			
第10週	日本紹介(5)歴史/近代化の原動力	表現、専門用語、内容の理解			
第11週	日本紹介(6)歴史/外国と日本の関係	表現、専門用語、内容の理解			
第12週	日本紹介(7)歴史/皇室	表現、専門用語、内容の理解			
第13週	コミュニケーション技術(5)非言語ーその1	表現、専門用語、内容の理解			
第14週	コミュニケーション技術(6)非言語ーその2	表現、専門用語、内容の理解			
第15週	コミュニケーション技術(7)非言語ーその3	表現、専門用語、内容の理解			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	日本紹介(8)政治	表現、専門用語、内容の理解			
第17週	日本紹介(9)選挙	表現、専門用語、内容の理解			
第18週	日本紹介(10)自衛隊	表現、専門用語、内容の理解			
第19週	日本紹介(11)外交関係	表現、専門用語、内容の理解			
第20週	コミュニケーション技術(8)シグナル	表現、専門用語、内容の理解			
第21週	コミュニケーション技術(9)プレッシャー	表現、専門用語、内容の理解			
第22週	コミュニケーション技術(10)説得ーその1	表現、専門用語、内容の理解			
第23週	コミュニケーション技術(11)説得ーその2	表現、専門用語、内容の理解			
第24週	日本紹介(12)経済協力	表現、専門用語、内容の理解			
第25週	日本紹介(13)技術協力	表現、専門用語、内容の理解			
第26週	日本紹介(14)文化交流	表現、専門用語、内容の理解			
第27週	日本紹介(15)国旗, 元号	表現、専門用語、内容の理解			
第28週	コミュニケーション技術(12)変化ーその1	表現、専門用語、内容の理解			
第29週	コミュニケーション技術(13)変化ーその2	表現、専門用語、内容の理解			
第30週	コミュニケーション技術(14)変化ーその3	表現、専門用語、内容の理解			
後期期末試験	実施する				
教科書	配布資料				
参考図書	NIPPON:The Land and Its People, 日鉄ヒューマンデベロップメント, 学生社 FACE-TO-FACE COMMUNICATIONS for Clarity and Impact, Harvard Business School Press				
評価方法	定期試験の成績を80%、レポート等の課題の成績を20%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
マーケティング Introduction to Marketing	5	2 * (30)	必修	後期 週2時間 A	渡部 順一
授業概要	マーケティングの意義について学ぶ。また、企業経営にマーケティングをどのように取り入れていくのかについて学習していく。さらに、市場とは何かについて理解を深める。				
到達目標	マーケティングの基本的概念を身につけて欲しい。 ①マーケティング4Pの概念が分かり、説明ができる。 ②競争が規定する産業の収益性を理解し、図表を用いて説明ができる。 ③ライフサイクルの概念が分かり、図表を用いて説明ができる。 ④ブランドの概念が分かり、説明ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1)、(C-4)、(D-3)。				
履修上の注意	市場におけるマーケティングについて、関心を持って欲しい。 自学学習の確認方法「授業の予習」あるいは「授業の復習」などの課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 市場をつくり出す企業活動 第17週 価値形成のマネジメント 第18週 価値実現のマネジメント 第19週 マーケティング組織のデザイン 第20週 マーケティングの資源配分 第21週 事業の定義 第22週 後期中間試験 第23週 消費者行動の理解 第24週 競争構造の理解 第25週 取引関係の理解 第26週 プロセスとしての競争 第27週 産業ライフサイクル 第28週 チャネル資産のマネジメント 第29週 顧客関係のマネジメント 第30週 ブランドのマネジメント 後期期末試験 実施する	市場をつくり出す企業活動 価値形成のマネジメント 価値実現のマネジメント マーケティング組織のデザイン マーケティングの資源配分 事業の定義 後期中間試験 消費者行動の理解 競争構造の理解 取引関係の理解 プロセスとしての競争 産業ライフサイクル チャネル資産のマネジメント 顧客関係のマネジメント ブランドのマネジメント 実施する	マーケティングの基本的枠組み 製品・サービス、価格 流通、プロモーション 組織のデザインと発展プロセス 規模と経験の効果、製品ポートフォリオ マーケティング近視眼 購買意思決定、市場細分化 競争とは、戦略グループ、移動障壁 取引関係の構造、取引コストと資源蓄積 企業の個性をつくり出す 生成期、成長期、成熟期、衰退期 マーケティング資産としての流通チャネル、製販同盟 顧客関係のパラダイム、顧客関係の維持と修復 信頼と識別、認知と連想			
教科書	『ゼミナール マーケティング入門』石井淳蔵他、日本経済新聞社。				
参考図書	『新版マーケティング戦略』和田充夫他、有斐閣アルマ。				
評価方法	定期試験70%、課題の提出30%で評価する。				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
企業論 Current Issues in Companies	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	遠原 智文 渡部 順一
授業概要	多様な企業理論のうち、経営戦略論と中小企業論について学ぶ。				
到達目標	①古典的な経営戦略論に関する基礎的な知識を習得する。 ②最新の経営戦略論に関する基礎的な知識を習得する。 ③戦後日本の中小企業の発展に関する基礎的な知識を習得する。 ④戦後日本の中小企業政策に関する基礎的な知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (C-1).				
履修上の注意	夏休みに、レポートを作成してもらい、その内容を発表してもらう。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	イントロダクション		授業の進め方およびレポートの書き方		
第2週	経営戦略とは		何をいかに学ぶか		
第3週	事業領域の定義		「ドメイン」という考え方		
第4週	戦略の策定(1)		企業/事業戦略の策定		
第5週	戦略の策定(2)		外部/内部環境の分析		
第6週	総合演習		これまでの復習		
第7週	総合演習		確認テスト		
第8週	競争の戦略		様々な次元		
第9週	新規事業創造の戦略		ミドルの役割		
第10週	成長の戦略		ベンチャー企業の不均衡創造		
第11週	ネットワーク戦略		新しい組織への動き		
第12週	グローバル戦略		多様な環境への対応		
第13週	地域企業の戦略		地域社会の中で		
第14週	経営戦略と社会		戦略的社会性とは何か		
第15週	総合演習		前期の復習		
前期末試験	実施する				
後期 第16週	課題発表		課題発表		
第17週	課題発表		課題発表		
第18週	課題発表		課題発表		
第19週	中小企業とは(1)		中小企業で働くこと		
第20週	中小企業とは(2)		多様ななかの共通性		
第21週	戦後日本の中小企業(1)		戦後復興		
第22週	戦後日本の中小企業(2)		高度成長		
第23週	戦後日本の中小企業(3)		知識集約化・減速経済化		
第24週	戦後日本の中小企業(4)		90年代大不況		
第25週	中小製造企業の経営		経営の多様性		
第26週	もの作りと中小企業(1)		下請取引と下請系列関係		
第27週	もの作りと中小企業(2)		産業集積, 日本工業の構造変化		
第28週	戦後日本の中小企業政策(1)		経済民主化型政策, 産業調整型中小企業政策		
第29週	戦後日本の中小企業政策(2)		産業構造政策型政策, 競争政策型政策		
第30週	総合演習		後期の復習		
後期末試験	実施する				
教科書	経営戦略, 大滝精一(他), 有斐閣アルマ 21世紀型中小企業論, 渡辺幸男(他), 有斐閣				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 確認テストおよび課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
言語文化 Language and Culture	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	松江 俊一
授業概要	文化とは文字どおり文字が化けた姿である。無文字→文字→文化→文明の流れに立脚しつつ言語を座標軸に人間現象について総合的に学ぶ。				
到達目標	①古代の歴史と言語文化の関係を把握する。 ②中世の歴史と言語文化の関係を把握する。 ③近現代の歴史と言語文化の関係を把握する。 ④現代日本人のエスニシティを認識する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3), (D-4).				
履修上の注意	文化は人間の精神活動の結果であり、その中心に言語がある。これまでに学んできたあらゆる知識を言語を中心に再構築してみよう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ことばと文化(1)	ことばの構造、文化の構造			
第2週	ことばと文化(2)	文字と言語の関係、物とことば、かかれた基準			
第3週	日本人の成立(1)	考古学的に見た日本人(1)			
第4週	日本人の成立(2)	考古学的に見た日本人(2)			
第5週	日本人の成立(3)	卑弥呼について、倭の成立			
第6週	日本の神話(1)	イザナギとイザナミ、日本人の穢れ思想について			
第7週	前期中間試験				
第8週	日本の神話(2)	アマテラス・スサノオ・オオクニヌシ、日本人の怨霊思想について			
第9週	古代・中世の言霊思想(1)	聖徳太子の「和」について、東大寺の大仏の建立について			
第10週	古代・中世の言霊思想(2)	平安京の遷都について、武士の出現と貴族との関係			
第11週	古代・中世の言霊思想(3)	漢字とひらがな、和文の創造			
第12週	古代・中世の言霊思想(4)	万葉集、古今和歌集、土佐日記、源氏物語に共通すること			
第13週	古代・中世の言霊思想(5)	神道と仏教(1) 神仏習合			
第14週	古代・中世の言霊思想と文化(6)	神道と仏教(2) 日本人の宗教観			
第15週	古代・中世の言霊思想(7)	総合復習			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	江戸期の言語文化(1)	蘭学について、オランダ商館の役割			
第17週	江戸期の言語文化(2)	本草学について、博物学の発展の形態(西洋の博物学との対比)			
第18週	江戸期の言語文化(3)	ケンペル・ツェンペリ・シーボルトについて			
第19週	幕末・明治の言語文化(1)	幕末情報ネットワーク			
第20週	幕末・明治の言語文化(2)	五箇条の御誓文の意味(穢れ思想、言霊思想の再確認)			
第21週	幕末・明治の言語文化(3)	江戸末期〜明治期における外国語の日本語翻訳について			
第22週	後期中間試験				
第23週	幕末・明治の言語文化(4)	福沢諭吉、西周、正岡子規、夏目漱石について			
第24週	現代日本の言語文化(1)	韓国の言語事情と日本語との比較			
第25週	現代日本の言語文化(2)	ビジンとクレオール			
第26週	現代日本の言語文化(3)	日本人の名前の特徴(1)			
第27週	現代日本の言語文化(4)	日本人の名前の特徴(2)			
第28週	現代日本の言語文化(5)	言葉の言い換え、差別用語			
第29週	現代日本の言語文化(6)	現代人の穢れ思想、言霊思想			
第30週	現代日本の言語文化(7)	総合復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	『ことばと文化』鈴木孝夫著、岩波書店;プリント配付				
参考図書	『閉ざされた言語日本語の世界』鈴木孝夫著、新潮社 / 『日本語はいかにつくられたか』小池清治著、筑摩書房 / 『古事記(上)全訳注』次田真幸著、講談社 その他講義中に指示する。				
評価方法	定期試験 70%、課題 及び小テスト30%で評価する。				